

365
24



始



特231
69



仁輝

第
四
版



巻頭謝辭

凡そ人物月旦ほど難ク敷しいものはなからう。褒め過ぎても
貶し過ぎても變なものになる、殊に僅かな短時日に書きあげ
たもの充分に材を蒐め得ず的を脱づれた妄評も多からう事と
信ずる、平に御容赦を乞ふ、次第不同も却つて此方が妙味あ
らんかとも考へた故です。玉石混淆の意味ではありません、
乞ふ諒察あれ。

昭和十年三月十日

原 静 村

序

日本人諸君

吾等が生きる國家社會は今ま斷崖絶壁を歩んでゐる。將に日本は有史以來未曾有の國難に直面してゐる、誠忠愛國の眞仁人は起てよ昭和維新の時は今ま也皇天明示の眞理法に生るの機は熟せり錦旗を奉戴して一君萬民、君民一家主義の實を擧げ上下一心億兆一體、眞に世界の精華たる君民合一、一君萬民、君臣一如を愈々強化せしめ人心革命を斷行すべき秋也

我國の政治の墮落腐敗も社會の混亂窮狀が容易ならざる事態を招來する恐れあり、然るに之を恢興拾收すべき術も力も無いまでに立ち到つた、この邦家の現狀を座視するに偲びざる状態にあり、

國家は政治理想の本質を失ひ民衆は凡て自己の立脚すべき大道を失つてその方途に轉迷しつゝあるに拘らず、而かも社會の大衆は擧げて之を覺らず偶々これを憂懼するものあり。雖も、大方禍の根源を正視明察するの能を缺除するか或は各自身上の都合に餘儀なくせられて行詰れる邦家民心打開の術を回らすものなく、又時に估息的手段を講ずる。雖も多くその徹底を缺き事蹟の擧らざる。ここは理の當然である。

この國家社會の墮落腐敗暗黒昏迷の情勢を徒らに經過推移せしめ事態をこの儘に放任せんか、終には國家に恐るべき凶變の將來あること明白である。吾等は之を深憂するが故に奮然起たなければならぬ、吾等はいくら自己に直接影響が無いからと云ふて少しく社會上

の出來事に對して敏感にならなければならぬ、お互に自分等自身のことだ。日本に於ける現今の政治でも宗教でも財政經濟でも乃至文化の程度でも一切の社會現象を有さあらゆる方面から少しく冷靜に眺めて見れば、そこに大和民族の日本、吾々日本人自身の國家がその現状から將來に就て深刻に考へて見たならば決して凝こしては居られない筈である。

徳富蘇峰氏はその近著の中で次の如き事を述べてゐる。

日本の今日の萎靡不振の狀勢は要するに國家的、國民的大理想を失へるに基因するものであつてアメリカはドル帝國主義を眞ツ額に翳して一擧に世界を席捲せんとし、ロシアは共產主義の理想を揚げて世界に赤化の雄圖に邁進し支那においてすら三民主義の旗

の下に自國の再建と對世界關係の改造とに一路驀進してゐるのに此の間に在つて獨り日本のみ何等の國家的理想なきは心細き極みであり、此の際日本國民起死回生の一途は日本國體の尊貴獨特に目覺めて、之を世界に光被せんと努力するほかはない。

吾人は此の蘇峰氏の提説に多大の賛意を表せんとするものである。今日の日本が現在の如き萎靡不振興國の氣象を缺けることは蘇峰氏の正しく指摘するが如く國民がその理想を失へるためであつて理想なき國民の萎縮せざるを得ざること、あだかも船に羅針盤なきが如きである。

而して此の國民的理想として氏が世界に特絶する我が國體の國際的發揮を擇び來つたこともまた誠に正しい政治の墮落腐敗、社會の

混亂は日本と云ふ大なる國家社會からしたならば誠に泡沫にも等しいものである。

さりながら邦家の危急に對する共同責任を痛切に感じ茲に泣いて同胞に訴ふるものである。されど吾等は自己の爲めに世に求むべき何物もない、たゞ國運民命の歸趨する所を凝つて視詰めて來て最早我慢が出來ぬ。

斷崖絶壁の突端に歩を進めつゝ、而もそれを覺らざる瞽盲の日本民衆よ、座視して憐れ亡滅の悶へ見るよりは、若かず、大聲叱呼して倒るまで戦はんにはさ、こゝに書きたはその血叫である。

今や我が日本人は世界的地位から謂ふならば、將に有色人種の盟主としての大自覺に立脚してやがて世界全人類安寧幸福への曉鐘を

つき鳴らさなければならぬ大切な任務を持つてゐるのではないか。

日本人諸君 人間が世に立つて個人としての成功と失敗、之れも軽視してはならぬ至重要な問題である。さりながら自己の生きる國家社會が滅亡的危機に類して居て、一身一家の富貴顯榮が何になるか速かにその無明昏黒の暗より醒めて、人の世の最高理想へ共に突進しやうでないか。

眞實に國を憂へ、大和民族に對して偽りなき慈悲心を有し愛國の爲め血を燃すものは起て、日本をして亡國的危殆に陥るものは赤化左傾の世界的思潮にあらず、社會主義にあらず、無政府共產主義にあらず、斯る片々たる跛行思想は大國家的正義の鎧袖一觸のみ。

吾等は進んで國家に多年醸生されたる虚偽と無稽の眞相を明らか

にせねばならぬ。

速かにその色眼鏡をはずして、國家的重症の眞實情を正診、凝視せよ、日本が惱みつゝある病症は實に中樞神經の麻痺症とは。

曰く國の立法院を組織する上下兩院に於ける議員の破廉耻、無能と我利我慾である。

曰く、官吏の無責任にして私利を營み自己の職責を忘却したる祿盜的醜類の愈々多きを加ふること。

曰く、上皇室より特別の恩澤に浴する華族階級が大方は自己の大切なる地位と責任を忘却し醉生夢生的輩が充滿してゐる悲しむべき事實。

曰く、實業家又は事業家と稱する輩ら私利私福に汲々として眼中

國家社會なく財界を顧みざるごと。

曰く、文教の府には一點晃々たる指導の方針なく昏亂錯雜その極に達せる思想の統一も取締も全く無能ること。

曰く、高等學府は公私立共に不統一紊亂せること。

曰く、人に安心立命を説くべき宗教々團は悉く腐墮落して最早有害無益の觀がある。枚舉するさへその繁に堪へないが概ね斯の如き始末である。

内治上らず外交振はず財政乏しく民に生活難ありて、實業興らず上下交々利を貪ぼりて飽くことを知らず眞に我狼の群と選ぶ所はない。噫々我等の日本をして斯くまで混亂危態に陥らしめた、この病原菌が何れにあつたか之れによつて明らかになつたであらう。

要するに吾等大和民族の光輝ある日本國家に外部から侵入する幾多の微菌がある、内部から發生する各種の毒素がある、これぞ是れ邦家病弊の原因を作するのである、外來の微菌は恐るべき繁殖力を以て侵蝕し内に發せる毒素は刻一刻その悪作用を發揮して止まぬ、内外相呼應してこの國を蝨毒してゐる。されど多くの同胞國民はこの國家大難に向心づかぬ何故に心づかないのか。

それが恰も痴漢が毒酒に狂醉せるが如くこの恐るべき微菌と毒素とに侵蝕されて己は既に暈醉の状態に陥つてゐるからではないか。眞實我等と憂を共にする熱血の同胞よ!!日本現下の疾患は叙上の如く人の風上に起つ人々が口に高言を吐きながら、誠に國家觀念なく崇高絶對の大日本國家的信念の缺除してゐることである。

而して一方未練の民衆が無自覺、無反省にもあやまれる彼等の甘言誘惑に引掛つた結果に外ならぬのでないか、良薬は口に苦く忠言耳に遡ふ、されど文王は言はずや「仁人は能く直練を受けて至情を悪まず」と、吾等は唯だ國を愛し同胞の前途を杞憂するが爲めに敢て直言するものである。起てよ、而してこの非常時に赴かうではないか、この憂ふべき國家の危急を自ら救済せんとするに果して如何なる方策を回らすべきか。

明治維新の元勳大西郷翁は偉人であつた、翁は生命もいらず、名もいらず、官位も金もいらぬ人間程始末におへぬものはない。然しかゝる始末におへぬ人間こそ眞に大きな仕事を爲すものであると喝破された至言でないか。熱血至誠の同胞よ我等の此所に提唱する日

本國家の非常時に際して。

眞實生命もいらず名もいらず官位も金もいらない熱血赤誠の士が山川草澤に蹶起するこのみである。

我れこそと思はん人士は奮然として起てよ、されど心事に一點の混濁があつては駄目だ、それぞ日本に昭和維新の大業を爲すべき卵子である。

烏合の衆團ならば百千萬あると雖も蛆蟲の蠢動に終らんのみ。
日本人諸君 鐘が鳴る 鐘が鳴る

奮然として起てよ。英雄出でよ、ぬツと立ち上つて非常時祖國を救へよ曉鐘がけたましく乱打されてゐる。非常時國難とは何にか英雄の出現を待望する民衆の関の聲である。世を慨し國を憂へて山

川沼澤に雌伏せる蛟龍の傑士は一舉にして奮起するここが刻下日本の最急務である。

日本人諸君

鐘が鳴る

鐘が鳴る

余はこの人物待望の民衆の関の聲に應へるべく常に國家、社會正義の爲め健闘され國民の典型であり、而して亦現時青年子弟を目的とする立志傳、成功談等に關する刊行物を見るに其の多くは熱血氣鋭の青年を煽動して一身を誤らしむるものならざる莫く。

害多くして益少なきを慨し後進者をして自己の出所、境遇、志望に應じて執るべき徑路を示さんご欲し、青年の最も印象の深くして且

つ感化力の強かるべき其人格、其富、其事業、其家格、其力量、手腕は光茫萬里を照らす人物を傳評し後進子弟の訓育の資する處あらんご欲し併せて諸士の功績ご名譽を不朽に傳ふるの料ごして本書刊行したる所以である。

復見よ、目を止めて行き暮れて寄る蔭もなき河原の石を枕にする
ルンペンをア、瘦影梢然誰れか悲慘ならずごせんや。

聲望並び高く榮耀一世に輝く貴顯紳士をア、成功の士誰れか亦羨仰せざらんや、抑々人生の行路や一起一伏その徑路には幾多の障害物横たわつてゐる。

人もし之に躓かば倒る、倒れて起つ能はずんばルンペンごなつて已む、倒れても又起ち上つて進む者獨り成功す、貴賤貧富千里相隔

つるの現實は茲に存するのである。

宜なる哉、失敗は成功の基なりと、夫れ然り殷鑑斯の如く明白なりと雖も、若し我に向つて失敗に處し如何にせば成功するやと問ふ者あらば余は得て之れに答ふるの資格なし、唯だ夫れ克く之に答へ得るもの成功の士あるのみと答へるのである。

先に昭和に輝く第一版刊行するや俄然各方面より多大の讚辭を辱ふし更に改訂増補出版せよと切實なる勸により茲に第四版刊行した所以である。

本書に登載諸士の評傳は先輩諸氏が各金玉の文章ありて何れもあやめと咲き亂れ恨むらくは余は文章を修めず文字を知らず余の文章の如きは固より人に示すべきものにあらざる事は余も之を識つて居

る。元より其の器に非ず、折角に玉璧を得て瓦石となすなきかを心窃に恥ずるものである。

昭和十年三月十日陸軍記念日

伏猪城下にて

原 静 村



(書しれらへ奥に者著日當選當長議が氏松國田濱長議院議衆)

松波仁一郎氏

法學博士東京帝國大學名譽教授
東京市牛込區仲町

世界的の學者、海法學の最高峯法學博士、松波仁一郎氏は明治元年一月一日岸和田市並松町に生まる由來泉州人は協力一致團結の思想に乏しく身を他府縣に寄する者は毫も郷里を顧みず、而して在郷の士は郷土出身者の姓名すら之を知らざるもの多く、隨つて其の間殆んど交渉なく、聯鎖なく、協合なしされば又先輩と後進者との間も疎隔甚だしく、之を他府縣人に於て見るが如き兩者の間に指導敬從の美風存ぜざるは吾人の常に遺憾とする所である。

殊に岸和田市出身の士に至つては地方を顧みるもの甚だ少なく、甚だしきに至つては教育家を以て任じつゝある人にして祖先の展墓も閑却して居る人物

がある。之等は文部省が祖先崇拜せよとの訓令に反するものではないか。今地方人士の言を聞くに學問すれば土地に居らぬ、親の墓も顧みないやうになるから、學者にはしないと云つてゐるものもあると云ふ風である。是を以て見るも地方先輩の感化程世に恐ろしきものはなく、一體愛郷心のないものは愛國心のないものである。教育も此處に至ると亦危険なりと云はねばならぬ。

然るに郷土の大先輩法學博士松波先生が身は高位高官日本の最高學府の大先生であり、而も世界的海法學者として全世界に鳴り響く先生は常に愛郷の爲に熱血を燃やし東京と岸和田を往來し市政の爲めに

産業經濟の爲めに將た亦、人物養成の爲めに總ゆる指導啓發をされ郷黨の爲めに盡粹せられたること眞に擧ぐるに迫まらず、實に松波先生は岸和田市の大恩人たるのみならず又以て當代の師表後世の軌範たり。吾等郷人愈々その盡孝報恩の大思想と盛徳を欽仰して止まないものである。

終りに臨みて先生に一言お願して置きたき一事がある。夫れは他事でない、先生はより多く歸郷せられ岸和田人士を精神的に指導してもらいたい一事である。

岸和田は依然として低級なる趣味を喜び、依然として公德心なく、公共心なく、依然として風俗人情は輕浮を極め依然として個人主義の弊を脱却せず、藝妓買ひと空威張りと鍍金細工の俗臭粉々、不謹慎極まる人物が横行し遂に物質文明の積弊の窮極する

所に到達するのではなからうか、吾人は此の想像の杞人の憂に終らんことを希望して止まないものである。

然し審に現代の岸和田を觀て其の將來を察するに物質文明の大に發達すべき千百の理由を觀ると、未だ精神文明の將來を樂觀すべき一の兆候を認めないのである。之が救濟策として博士が常に高唱される教育機關の完備に俟つの外はなく、之れに依りて精神文明の必要を悟らしめ、岸和田紳士をして岸和田の現代精神の缺陷を自覺するの素養を得せしめなければならぬ。

然らば精神文明を高唱し岸和田紳士の精神的向上の大指導者として何人が適當であるか、現在の岸和田を見渡すところ残念乍ら適任者が無い、財界人としては天下の富愛勤行力行の權化寺田甚與茂、寺田元吉翁等が世に在はすときは岸和田の大御所として

八方に睨みを利かして居たが、兩翁亡き今日は全く群雄割據して偉いもの勝ちの状態である。此の意味に於て岸和田の御意見番、大指導者として博士が言はるゝことには市民の何人と雖も毫も異存はない、異存どころか益々繁く往來して岸和田の蒙を啓いてもらいたいとは四萬市民熱望して止まないところである。

博士の産神岸和田市菅原神社境内に昭和三年三月母公の報恩の爲め建設された報恩碑の碑銘

報恩碑表の碑銘

報 恩

東郷平八郎書

報恩碑裏の碑銘

松波先生ハ明治元年一月一日並松町ニ生マレテ幼キ頃父ヲ失ヒ慈母ニ育テラレマシタ、明治十四年岸和田小學校同十九年京都同志社英學校同二十三年第一高等中學校同二十六年帝國大學ヲ何レモ首席デ卒業セラレ同年法典調査會補助委員トナラレマシタ明治三十年歐米ニ留學同三十二年倫敦ニ又三十二年巴里ニ開カレタ萬國海法會議ノ副議長ニアゲラレ歸朝後東京帝國大學教授トナラレマシタ明治三十四年法學博士ノ學位ヲ授ケラレ同四十二年商法取調委員トナリ昭和二年四月勅旨ニ依リ帝國學士院會員ヲ仰付ケラレ今ハ從三位勳二等デ日本全國教員二十數萬人ノ筆頭デアリマス。

本官ノ外日清日露ノ戰役ニハ内閣及ヒ陸海軍省ノ顧問トナラレ手柄ガアリ又十數年間續ケテ文官高等

試験委員ニナラレマシタ民間ノ職トシテハ現ニ海軍
協會及ヒ港灣協會ノ副會長海防義會監事等ヲツトメ
テキラレマス。

先生ハ幼少ノ時カラ母ノ教ニ依リ當産土神ヲ信仰
セラレ常ニ報恩ノ誠ヲ致サレマシタガ茲ニ其微意ヲ
表ス爲トテ此碑ヲ建テラレタノデアリマス

昭和三年三月

岸和田尋常小學校第六年生作文

並ニ謹書

帝國學士院會員從三位勳三等

法學博士 松波仁一郎建之

衆生近きを知らずして

遠く求むる愚かさよ

たとへば水の中に居て

渴をさげぶが如くなり

長者の家の子となりて

貧星に迷ふに異らず

六趣輪廻の因縁は

己が愚痴の暗路なり

暗路に暗路ふみそへて

いつか生死と變る可憐

(白隱禪師)

寺田甚吉氏

南海鐵道株式會社社長
兵庫縣武庫郡精道村

西日本の富豪を語るもの、先づ指を必ず寺田家に
屈す。而して富主寺田甚吉氏が果して如何なる人物
にして如何なる性格を備ふるかは苟くも寺田家を知
らんと欲するもの、齊しく聞かんと欲する所にして
試みに之を縦より觀、將た横より、上より、下より
觀て、所謂、縱横無盡に論評するは極めて興味深か
き事なるを信じ、則ち茲に吾人の眼に映じたる天下
の富豪寺田甚吉氏を拉へ來りて、滿天下の人に縱横
解剖の刃を下さんとす、現實に一億の富を有し、寺
田家の總統領となり、威望二つながら兼ね備へたる
所謂天下の大富豪寺田甚吉氏は果して如何なる人物
なるべき乎、一言にして之れを盡せば氏は「富豪」

してその本分を完全に盡す人なり」

天下の富豪寺田甚吉氏

天下の富豪と言ふ肩書は名譽の表章なりと思惟す
る榮冠よりも人物其のものには一層大なる輝きが潜
んで居る。蓋し富豪や會社の社長の如き、必ずしも
氏一人の占有物にあらずして他に幾らも其類がある
況んや富其物は必ずしも名譽の源泉なりと限つた
ものにあらず、反つて之れが爲めに人生の意義を没
却して顧みぬ富豪も多い世の中である。

大資本の會社々長も亦時に天下嘲罵の標的たるこ
とがあるではないか。されば富豪たり、又社長たる

ことが必ずしも其人物を褒貶する標準とはならぬ。唯だ富豪にして富豪たるの本分を解し社長にして社長たるの職責を辱かしめぬと言ふ者に於いて始めて其人物を稱すべきである。

然れども富豪にして富豪の本分を盡し、社長にして社長の職責を全ふると言ふことは固より當然のこと、之れを以て特に其人物を稱揚するには足らぬ。而かも此の當然のことを全ふするものが甚だ勤きを思へば實際世の中に人物の少なきことを知るべく隨て其當然のことでも之れを全ふするものは偉い人間と謂はねばならぬ。

況んやそれ以上のことを爲すものに於いてをや。一體我が國の人は富豪になると人間は總て凡化するやうな傾向がある、是れ蓋し富豪なるものは悉ゆる物質的の慾望を充たし得る地位にあるを以て自ら

安逸に耽り遊惰の民となるか或は其富の擁護に専心し愈々益々慾望を増大にして自己の營利のみに汲々として殆んど他を顧みざるの餘裕を有するものなく、富豪の本分とか社會公共の爲めなどと言ふことは其念頭に起らぬのである。隨て益々凡化する而已で、富豪に人物なしと言ふは洵に所以なきに非ずである。試みに今日世の幾多の富豪に就いて觀るに其家門の内には黄金の光りは放つて有るも富豪其者の人物には毫も光りはない。然るに世人の多くは黄金の光りを見て直に富豪者たる人物の光りと爲すやうであるが、是れ謬見の甚だしきものである。

即ち今日の富門豪家と稱せらるもの、中より黄金の光を除き去つたなれば跡は即ち暗黒にしてゴム人間同様である、蓋し富門豪家始めより英才生れざるに非ずも黄金の權勢に眩惑し爲めに非常なる英才非

凡なる傑士に非らずんば其向上を害し進歩を阻止せられ、其人物をして大ならしむることが出来ぬ結果である。

故に若し富豪にして其有する富に眩酔せず、其人物を向上ならしむると共に自ら放つ其身の光りが黄金の光りに打勝つと言ふ人物あれば夫は非常なる人物であると思はねばならぬ。

今寺田甚吉氏を觀るに氏が富豪としての地位は固より關西に於いては大なるものである。けれども氏は決して富其のものをば左様に有難いものと思つて居らぬ、唯だ我が家族制度の上より一家の家長として亦父祖に對し子孫に對する義務として其富、財産を理むることに怠らぬと同時に氏の頭にはヨリ一層國家社會と言ふ觀念が充溢して居る、隨つて世の富豪が或は無意義の生活をなし、或は唯だ私利私慾に

汲々として殆ど他を顧みざるものなき時に當り、氏は國家を思ひ社會のことを考へ郷土岸和田の振興とヨリ良き岸和田市建設の高遠なる理想を辿つて一面には思想家ともなり、又實業家ともなつて其人物は絶へず向上して止まぬと言ふが如き、氏は決して尋常一様の人物でないと言ふことが解るであらう。即ち其人物は氏の財産よりも遙かに以上であることが判る。尙ヨリ一層切實且つ具體的に氏の人物に就いて評論するの自由を得さしめよ。

個人としての寺田氏

物に利弊の伴ふが如く、人には亦長所もあれば短所もある、這は如何に英雄豪傑でも又は大人物でも到底免れぬ處である。今寺田氏を觀るに、氏は頗る長所に富んでゐる、加之其手には大なる富を提げて

ゐるから些々たる缺點の如きは縦へ之ありとするも蔽はれて人の注目を惹くに足らぬやうである、そこで氏に親しむるもの、氏を評する言を聞くに唯氏は偉いと言ふ、何が故に偉いかと問へば氏は富豪なるを以て偉いと言ふに歸するやうであるが、これでは毫も偉らいた言ふ理由にはなつて居らぬ、常眼凡眼を以て到底人物が判るものではない。余を以て觀るに氏は頗る民衆的の人物で人と隔壁を設くるやうなことはない、而して氏は最も自信力の強き人物である。隨て常に無遠慮に自己の意見を率直に發表して憚らぬと共に又之を行はんとするに當り少しも掛け引がない、掛け引のない處、時に或は露骨に見へ、亦無遠慮にも見へることがある。故に表面のみを見るものは或は誤解することがあるかも知れぬが、併し之れを誤解するのは見るもの、眼識がないからである。

寺田氏の性格

氏は大膽にして而かも細心、聰明にして而かも沈毅類達にして而かも宏量、先見の明、着眼の鋭、飽く迄大事を遂行するといふ勇氣と苦節を備へ、苛くも一度劃策したる事は中途にしてドンナ障害があつても敢行せねば熄まぬといふ、いと頼もしき活き／＼した精神をその渾身に漲らしてゐるものは其吉氏である。

亦至つて平和な人である、而して極めて徳素を重んずる人である。其の術はず、誇らず、非義を悦ば

ず、非禮を行はない所謂氏が篤實篤行のうちに人を愛するといふ美德がアリ／＼と現はれてゐる。

氏が人に勝れたる愛國の熱誠も又善事に向つて敢爲過往の美質に至愛至仁の美德から轉化した處の醇汁に過ぎない。古人は愛を以つて衆徳の最だといふた。愛は何故に夫れほどに尊いのであるか、愛は不朽的のものである、決して改易的のものでない。之れと同時に愛は絶對的のものである、更に不變的のものである。天地が壊はれ人類が減びても愛は決して壊はれない滅ばない、ソノ如く至愛至仁の人は不朽の人である。不變の人である。

又平和を好む人は愛の至情の溢れた人である、如此の人はドンナ場合にも餘裕がある、恒に心が平かである、即ち死に臨んでも樂に居ても苦に處しても仕事の時も遊ぶ折も食事の際も若しくは又朋と語り

人と談ずる間にもコセ付かないで應揚な何んもなく靜かにユツタリとした處がある。而してかゝる人こそ果して其容貌に至るまで寛厚の同情と平和の波とを湛へてゐる。

而かも寺田氏は確かに其のタイプの一人ではないか、然り寺田氏の容貌は恒に平和の波を漲らしてゐる。甚だしく自得したる人間として満面悉く之れ平和の神が旅宿、宮殿のやうである。福澤桃介氏は嘗つて氏を評して曰く「寺田氏は人物も大なれば隨つて其の器も大である、氏が胸中恒に無限の平和を湛へて紆除迫らず粹然として餘裕のある處などは大阪に於ける青年實業家第一等の人物である。而かも氏が平和の源より湧沸する無限の愛嬌は亦矍然掬すべき風趣がある、之は決して他に匹儔見ない氏の天品である。」然り福澤氏のいふが如く氏の平和と盛徳

は氏の天品である。即ち天品であるが故に自然である。氏は決して平和を衒ひ有徳を虚飾する人でない、氏は此の點に於て確かに萬人超卓せるものである。

抑々日本の富豪と歐米の富豪と對照したならば全く正反對でとても比較にならぬ、歐米の大戦に際しても英國あたりの貴族富豪が政府に金を提供し、國家の大事を各自の双肩に負擔する意氣を示して居たことは、とても日本人の想像にも及ばぬ所である。彼等の多くは其の政府が課税の少ないことを心配し何故に更に多く取つて國家の爲めに費さないかと言つたことがある、之れを往年の日露戦役に際して政府が公債を勧誘しても仲々容易に應募を請しなかつた日本の富豪に比較すると如何に是を取つべき者ならざるかを知ることが出来る。

最近に於ても昭和六年滿洲事變に際しても亦然りである。暴戾な支那人に我等の表徴日の丸の國旗が蹂躪されても彼等資本特權階級は血を燃やさない、零下四十度の朔風漂々として面を刮り冷寒凛々として指を隆す北滿の曠野に皇軍の權益を護る爲めに戦を續ける我が勇士の慰問の聲は全國津々浦々熱火の如く燃え上り、可憐なる一小學校兒童も起つて皇國萬歳々叫び、大和撫子らも血書認めて看護婦を志願し、又宿場女郎に到る迄、貧者の一錢を眞心と共に眞に舉國一致忠烈正義の士を慰問したが彼等貴族富豪階級は知らぬ、存せぬ振りをしてビタ一厘も慰問しなかつたことは實に非國民、非人道的に良心を自段されてゐたのである。

彼等今にして覺醒せなければ全く取りかやしのつかぬ破目に陥りはしないか、世界の歴史の中に革命

的の事情の多くは貴族富豪と政權の壓迫に反抗して其の槍玉に上げられたものは横暴なる富豪と貴族であつたことを彼等は考へなくてはならぬ。

日本の富豪は富の乞食、富の囚奴、富の非道者を以て甘んずる傾きがある。即ち彼等の懐中は恒に豊かに其の倉庫は財産を以て盈されつゝあるも彼等の心には平和が宿つてゐない、至樂の何物たるかを解せない。ゲーテなどもいつた事がある、「富の何物たるを解せずんば以て富者たるを能はず」寺田氏は此の亞流の富豪と大いに撰を異にしてゐる。氏は慈善と公共と國家の爲めには喜んで金錢を損つるの義心もある。而も此の義心は絶へず氏の肺腑を燃やしつゝある。氏の理想は富豪として其の本分を出來得る限り端したいといふにある。之れを詳言せば富の後世に遺すべき土産として其の富を及ぶ限り善用す

るにあるのだ。更に之れを換言せば後世に傳へて以て燦然飾るに足るべき一大土産を遺物としたといふにある。

富の善用的最後の目的は宛かもクロムウエルの世後に英國を遺し、ワシントンの米國を遺したと同一である。氏など慥かに此の理想の一人ではあるまいか。

寺田氏の其の性格は率直にして剛毅、人に對して城府を設けず又能く部下を愛す、氏が會社に出勤するや如何なる微賤の業に従ふ一労働者に至るまで會へば必らず慰問を返す、會て吾人は或時戯れ「是れ君が人望日に隆き所以也」と言へば氏は笑つて曰く「何も吾輩は彼等に向つてお世辭をいふ必要はないが、さうかと言ふてお世辭する位いで人心を收獲することが出来るものではない、吾輩は只人間とし

て禮を返すに過ぎない、彼も我も同じ人間である以上互に相當の禮儀あるべき筈である」然り氏が如何なる場合にも「人間本位」若し黄金萬能主義の日本の富豪が亡びたる時は正に寺田甚吉氏が太平を謳歌する時であらう。吾人は氏の人格を推量す、氏は飽大なにして慈眼仁腸である、氏の益々富まんことは獨り吾人の祈る所ばかりでなく恐らくは一般貧者と雖へども又之れを祈るものである。貧者をして益々富まんことを祈らしめよとは之れ天來の聲である。苟しくも氏をして此の聲を發せしむ、之れ富者として其の義務を果し本分を竭すに於て遺憾なきを致すからではないか。寺田氏に就いて猶詳しく論ずべき點もあらうが氏の眞面目は如上の評の中に委されてゐるだらうと信ずるから此位に筆を擱くとして最後に附言したきことは氏の高遠なる理想偉大な抱負、

その義心を今日直ちに實現することは慎重なる氏のことであるから不可能であるかも知れないが他日必ずあることを吾人は信じて止まず。

財を失ふも何かあらん、勇氣を失ふも憂ふるに足らず、名望失ふも尙可なり、精神を失ふに至りては救ふ可からず

高岡隆心師

古義眞言宗管長
和歌山縣高野山

凡そ世に社界人生を濟度せんとする宗教家の天職は實に崇高偉大なるものである。然るに今日の宗教家ほど其崇高偉大なる使命と天職を辱かしてゐるものはなからう。彼等は口には衆生濟度を説くも多くは偽善である。

蓋し宗教家の眞面目は至大なる信仰力に依り始めて發揮し得らるなり、未だ自ら信仰の力なく熱もなく光りもなき、寺院の俗權を以て人を濟度し、世を救はんとするが如き因より望み得べきことでない。然るに今日の宗教家は多くは斯の如くである。去れば世は舉げて濁り、世は舉げて酔へる今の時に當り、獨り澄み、獨り覺めて人の靈性を救濟すべき彼

等は反て自ら濟度を受くべき状態に陥入り、口徒らに偽善を唱へて實は放逸淫縱至らざる莫く、或は權力名利の爭奪に日も亦足らぬと云ふ有様、錦衣緋衣の高僧も權勢を漁つては佛法の大旨を忘れ、學問はまた盛んであるが、靈火的の信仰の志あるものは少くない。一山に貧慾の魍魎が横行して我佛教の末路は方に惘熱の頂點に達し腐敗の徵候は續々として現はれ、勢ひ人心は動搖して思想界の混亂今日より甚だしきは莫い。此時に當り佛教家中に於て其靈火的の信仰を有し、亦其人格的感化力も大にして、能く信徒を嚮導し、天下の人心を歸向せしめるに足る、多くの宗教家を壓し富士の秀嶺の如く天に沖す。

太田光熙氏

京阪電氣株式會社々長
合同電氣株式會社々長

自己尊大、自大思想の時代の趨向も知らねば他人の進歩も知らず、世の中は何時も自分計りが勝者であるやうに思ひ、富の單位も變れば人物の相場もかはり、世は既に遺志せんとしつゝあるに依然として富の所有者、名望の抱擁者と自認し、泰然目若たる人の多い我が電氣界に唯一人群離の一鶴、退嬰、落伍、亡び行く思想家を卑視し、業界の天下を支配する底の一大氣魄を有する快漢、京阪電氣株式會社社長合同電氣株式會社其他各種の社長重役として我が財界に重きをなせる太田光熙氏を有することは實に電氣界の誇りであつて亦一服の清涼劑である。否カンブル注射乃至食塩注射である。

太田氏は山口縣トの名門として天下に鳴る大場景明氏の四男、明治七年十月生である。氏は天下の志士、贈正五位白石正一郎の實の令孫に當り、三重縣山田の豪族太田小三郎氏の養子になり太田家の先代小三郎氏は豊前彦山の勤王の國士を以て有名な人で維新當時は徵士として三條公等と親しく交り大いに國事に東齊西走した國家の功臣である。

王政復古なるや清浦圭吾伯、故松方正義侯等とも往復し國家に忠誠を致したる名士で其後伊勢に引退し故吉井伯の後援に依り神苑會及び參宮鐵道株式會社を起し、三重縣下の事業界の元長として重寶せられた。

太田光熙氏は明治三十一年東大法科大學を卒業し而も既に在學中高文をパスした程優秀であつた、大學卒業後直ちに逓信省に入り高等官となり新橋運輸事務所長を経て當時逓信の所管であつた鐵道院運輸部庶務課長に榮轉し、在職中政友會の智將として天下に響く岡崎邦輔翁に其敏腕と頭腦の明晰を見込まれ同翁の懇望に依り京阪電氣鐵道株式會社支配人に聘せられ幾ばくならずして一般株主の切望に依り同社の常務取締役就任し同社を切廻し岡崎社長の後を承けて社長に就し以來今日に及んでゐる。

元來京阪電氣鐵道株式會社は土居通夫、田邊貞一、渡邊嘉一、桑原政の社長、専務時代から内憂外患實に關西電氣界の伏魔殿として定評があつて容易に統一はつかなかつた、太田氏は就任と同時に氏は満身の精力を傾け社務の刷新を謀ると同時に他面に於い

て全渾の智力を振起して幾多の情弊を剪除した、之れより局面一變、社務の整理の緒き社規亦大いに振ひ遂に今日の如く京阪電鐵をして業界の模範となさしめた其功績や實に偉大なるものである。

人生の職分を見棄て社會に對する義務を顧みざる者は
世棄人なり

(アントニナス)

古妻嘉藏氏

織物貿易商
泉南郡佐野町

政治家に尊ぶ所のものは内に高遠なる政治上の理想を有し、外に之れが實行に努むると共に主義主張に由つて終始し、而して其志操の堅固不拔なる所にある。

斯くして始めて眞の政治家と稱することを得べし蓋し政治家に主義主張なきものは恰も船に羅針盤なきが如く何等の用を爲さざるのみならず、寧ろ國家社會に害毒を流すものと云はねばならぬ、政界の腐敗、國政の廢亂は總て此種の政治家が世に多い結果である。

而も政治家と稱して國政を安定し民衆を指導せんとするに至つては危険之れより甚だしいことはない

然り我國政治家と稱するものが滔々として皆此の有様である。されば憲政實施以來既に幾星霜政界は腐敗に腐敗を重ねて互に利を射るに汲々たるが如き少しも怪しむるに足らぬ。

此秋に當り高遠なる理想を抱き堅實牢固なる主義主張に由つて進退し、常に國家公に會つては三百萬府民福祉に勇奮邁進穩健着實なる古妻嘉藏氏を有するは實に泉州の精華と欣ばすば非らず。

古妻嘉藏氏が泉南郡佐野町の名家古妻家に生れ、岸和田中學校第一回の卒業生である、元來氏は實業界出身の政治家なるも政治的の發露としては政治家として當然經なければならぬ階級を順序よく、而も

常に無難に府會議員、其他町會議員、町長の地方的名譽は何一つとして缺かさず經て來て居る。

或日往訪の記者を迎へていと快く引見された時の氏の民衆的態度は流石大衆に絶對的信認され、彼等より神の如く尊敬されて居る近代人の要求する民衆政治家だナと驚かざるを得なかつた。その温容な風貌亦人を魅すところあり、即ち徳を以て廉潔な性情を自然に發揮するやうに思はれる。多辯を弄せず一言一句悉く大衆の福利増進、非常時國難打開の實に花も實もある話のみ、時に産業振興を論ずれば又人世の處世の道を説き或は青年鞭撻の快氣焰を聞く、その氣魄の稟とした處は或る意味に於いて古武士的であるとも云へる、所謂花も實もある政治家と云へば恐らくは此の古妻氏の如き人を指すのだらうと思ふ。

氏は政治家としては常に社會公共の爲めに盡し郷土にありては斯くの如き頗る温情拘すべき應接と溢る人間味と而して又私事公事に抱らずよく人の世話をせられるから誰もが慈父の如き感を以て畏服せしめて居る。

現に角温情主義にして幸にして自己の誠意と徳望が對者に迎合するならばそれで可りといふ内剛外柔淡快な性情は現代實業界出身の政治家に稀れに見る床しい點である。

又實業界に於いても和泉無盡株式會社々長其他會社の重役を兼ね隠然重きを爲してゐる。

山口喜久一郎氏

和歌山縣會議員
和歌山市字須

政治家に缺く可からざるものは雄辯である。恰も戦場に於いて武器は兵士の生命なるが如く、雄辯は政治家にとつて唯一の武器である。縦へ識見が高く抱負があり、主義主張ありとするも此の武器を有せずんば到底政治家として成功する譯には行かぬ、況んや主義もなく主張もなきものに於いてをや。然るに世には雄辯家少なく又主義の堅備にして且つ偉大なる抱負を有するものなく是れ政治家として成功するの、甚だ寥々たる所以である。

今和歌山縣に於いて政治家に志せるものを見るに又此の例に漏れず、試みに縣制布かれて幾十年、以

來縣會議員幾百人、縣政經綸の天才を抱き縣會議場に縣百年の大計、縣民の福利増進の爲め侃諤の辯を弄したるもの果して幾人がある。多くは四年間無言の行を修し縣民より沈黙の勇士の有難いニツクネームをつけられたもの多く、甚だしきに到つては其の存在すら認められたるも少なし、又心細きことならずや、之れ蓋し悉く縣會議員として識見抱負を有せざりし結果にはあらざるべく其唯一の武器たる辯論に長ぜざりしの致す處である。

我山口喜久一郎氏は佐賀縣出身にして學生時代より萬人敬慕して止まざる天下の雄辯家にして縣會議

員中の花形である。

氏は縣政上に遠大なる抱負、高遠なる理想を有し和歌山縣下に於ける若手政治家として全く縣民より絶大なる信頼を受けつゝあり。

氏は純真なる青年政治家だけあつて常に純真なる主張、堂々たる言論は實に縣會の權威となつてゐる近き將來には日比谷の原頭に於いて國民の福利増進國力の進展を絶叫する人である。

國は大なりと雖も戦を好めば
必ず亡ぶ
天下平なりと雖も忘るれば必ず危し

(史記)

川端政繁氏

大阪府會議員
泉南郡山直下村

府會議員の人物の向下したる今日の如く甚だしきはない。いま大阪府下の府會議員なるものを一瞥すれば眞に府政を料理すべき抱負あり、才能あり、人格ある人物が果して幾人あるであらうか、されば府財政教育、勸業等の大問題に對しては一定の主義政策もなく徒らに府當局の施設に甘んじて其の缺點を指摘するの明はない、殊に又見識のないことは夥多しく府廳の役人にさへお辭儀の百萬遍で若しも知事の官舎で一餐の響應でも受けることあれば之れ無上の光榮として恐悦がる風である。

従つて當局には侮蔑され、國家の根底たる自治團

體の健全なる發達杯は思ひもよらず、彼等に唯だ肩書の虛榮に渾身の浮身を棄して選舉民に威張り散らすだけが關の山である。

ア、府民三百萬人の決議機關として斯る醜態を代表せしめて居るのは洵に心細き次第と云はねばならぬ。

此時に當り一定の主義政策もあり、人格識見と府民の絶對的信認もありて硬骨なる議員を物色すれば我が泉南郡選出府會議員川端政繁氏の如きは即ち其の一人であらう。

氏は泉南郡山直下村新在家の名望家川端家に産れ

岸和田中學校卒業後、泉南郡書記を拜命し、郡制廢止と同時に全村民の熱望に依り山直下村々長に就任し昭和六年九月二十五日最高點を以て府會議員に當選し今日に至つたのである。

當選以來誠心誠意を以て府政の爲め懸命の努力を盡し其の實績は着々として舉り、第一期生と云へ正に時勢の要求に適應せる理想的府會議員で、常に頭腦の透明に恵まれて居るのみならず、實際家としての手腕が他の府會議員以上に優つて居る。

氏の資性、田舎政治家通有性の威張るやうなことは毫もなく、温厚篤實にして風采態度の應揚なる面かも自然に具はる氣品崇高なる人格を有し氏の温容に接せんか駘蕩として春風に吹かる想ひがある。

心は大洋に似たり、激浪

澎湃、洶去し、暎來し、

而して多くの麗しき眞珠

を其の深底に藏す。

(ハイネ)

別所友信氏

和泉紡績株式会社取締役
岸和田市宮本町

實業界は嚴格なる意味に於て常識の戰場である。實業に常識の要するのは、猶軍隊に各種各様の武器を要すると同一である。

單に今日と言はぬ、執れの代如何なる時代にも此の如き常識の人は必要である。就中今日の如き過渡期の實業界には切に其の必要を感ずるのである。

所詮過渡期の犠牲者たるべき實業界の偉人物は吾人に向つて常識の發達を教へ、鍛練を教へ、更に効果をも教へつゝある。

實業家に取つての常識は或意味に於てバンよりも冷泉乃至良眼資本よりも必要品の一となつてゐる常識は大資本である、大才能である、大建築物である

更に大信用である、彼れの前には資本、建築物、果して何の爲めなるものぞ。

別所友信氏は關西紡績界に於て最も常識の發達したる技術家として和泉紡績以外にも大いに羽振を利したものである。

氏が和泉紡績株式会社取締役として同社の爲めに銳意之れを勉めつゝある。其の經營が現實に移つて氏の常識を遺憾なく發揚してゐる事が知られる、更に亦發達せる常識を有する氏の口より出する言は多くの人を生かし又救ふの力がある、宛かも天來の福音のやうに。

而し氏は必ずしも救ふに足る程の雄辯ではない、

然れどもソコが發達したる常識の力は格別である。故に其言には無理が無く、片手落がなく、極めて公平に極めて誠意を披瀝した處が見へる、随つて其言ふ所眞理を含まれてゐるのである。

常識の人は何事も自己の常識から割出した談論よりせない、デあるから其の識論は直である、正である、牽強附會な處がない。況んや烏を鷲と胡魔化するをや。

別所氏の公平な識論と眞理である言論には敵はない、宛かも仁者の敵のないと同一である、和泉紡績に働く數百の社員労働者は皆氏の言論を神の福音と聞いて居る、否會社内だけでない、泉州財界に重きを爲せる所以である。

凡ゆる者を服従せしめんと

欲せば先づ自ら道理に服従

せざるべからず

(セネカ)

野村正幸氏

合同電氣株式會社
和歌山支店長

當今關西電業界で先づ手腕家なる者を求むる場合には名望隆々たる社長級に於いてするよりも寧ろ常務、専務、支店長級の人々にあつて其の多くを得らるものである。

社長級の人々等は所謂名望で立つて居る人で、經濟上の勢力と社交上の信任との二點を以て兎も角と一社若しくは數社の管理者として専務、常務、支店長の人々を操縦して居るのである、けれども夫れが決して能くやり切ると云ふ手腕の力でなくて其勢力の過半以上は彼等に追隨し若しくは彼の下にあつて業務を擔任せる専務、常務、支店長の人々の術中に因る者である、だから單に電業界の手腕家と言ふ

場合になると最も多く實務に當つて居る専務、常務の側に於て求めねばならぬことになる。常務、専務支店長級に於て幅を利かして居るものは我合同電氣株式會社和歌山支店長として日々一切の社務を見て居る新進氣鋭、玲瓏玉の如き野村正幸氏を挙げねばなるまい、氏は實際素養もあり資力もありし、隱然重きをなし、氏の斯界の其潛勢力は實に大なるものである、老成な社長株は差し置いて實際の勢力と言つたら驚嘆の外はない。斯して氏は和歌山縣のみならず實に業界一方の重鎮として重寶がられて居る。

野村氏の人量と手腕と人格を信じてゐる太田社長は一切氏に任せてゐる、一切の權限を委任された氏

は社長の意氣に感じて居る。人生意氣を尙ぶ男子亦知己に感ず社長は自分を買つてくれたといふことは大なる知己である、此の知己に對して酬ゆる所以の道は精力の傾倒にある、粉骨碎身にある、滿腔の誠意を捧げて社務に當るにある。

氏は益々愈々知己の感を深めて行く縦し身を千々に砕くも辭するところでない、オ、起つ、和歌山支店をして磐石の如き地盤を築き上げるにある、今に見て居れと興奮的氏獨特の負けず魂しの弾力は一層の猛火となつて氏を發奮せしめた、氏は滿身の精力を傾けて社務の刷新を謀ると同時に他面に於ては全渾の智力を振起して幾多の情弊を剪除した、之より支店整理の緒に就き他面電燈電力の擴張に腐心の結果今日此の盛況を招來したのである。

氏は内剛外柔の人にして一見貴公子然たる君子人

であるが夫れは表面を見たるものにして氏の内心實に鐵心の如き意氣と熱の所有者である、渾身全く破竹の如き性格を有する人である。故に氏は如何なる場合に於ても亦如何なる人に接するも氏は何處までもエキスプレションなり而して氏のエキスプレションは物を呑むのみ、人を呑み時には事業迄も呑む概がある。而して此の事業に對する執着力は全く此のエキスプレションの權任したるものにあらずして何ぞや、此のエナヂーは此の意氣の發動し來れる結果にして而して此の意氣は理性を調合し自信力を配合す、氏は此の最も鋭敏なる原動力によつて先づ其發揮點を得たるものにして斯くして氏は更らに強烈なる執着力精力主義を以て終始する人である。

蓋し合同は氏の生命なるが如く、同時に亦氏一身が合同電氣の生命となりて終始すべきなり。

宇都宮敬次氏

合同シャトル株式会社
和泉木管株式會社
専務取締役

我國は古來瑞穂國と稱し農を以て立國の基礎となしてゐた。然れ共維新の開國と共に今日に於いては地勢上より推論するも商工業國たるに適せりと云ふべく、否世界貿易の中心市場たるに適富してゐるのである。殊に亦我國は南洋に近く一帆若し貿易風に乘せば汽力を藉らず棹櫂を要せずして、直ちに南洋の諸島に到り、濠洲大陸と往復することが出来る。是亦日本特有天の我國に恵む處で斯の如く深く且大なるものがある。然れ共地を用ふるは人にあり、彼の英國は地形の便日本に及ばざること遠く、然るに其の商工業の盛、富力の大なる所以のものは英國人が皆勤勉の結果である。故に日本國民たるもの若し何時迄も東洋の仙人國を夢想して商工業を振張し、

外國貿易の大策を劃せずんば此の世界最便の地も何かせん、天恵地福も亦何の用もなさぬであらう。就中泉州は大阪神戸兩港の東洋貿易の兩市場を有してゐるにも拘らず泉州人で貿易事業に従事してゐる人は殆どないではないか、何ぞ斯くの如く貿易思想の發達しないであらうか。

泉州の人物いづれも恁くの如き時に當り偶々宇都宮敬次氏が自ら海外輸出の第一線に起ち日本の爲めに極力盡瘁せられつゝあるは吾人の最も感謝するところである。由來泉州に人物が乏しい、否人物が澤山あるが吾人は現代の泉州人に大不平を有するものである。其の理由は泉州人の型は小さい、萬里の波上に鯨の浮ぶ如き態度あるものはない、何れも藝者

買ひと空威張りと鍍金細工の俗臭粉々不動慎極まるものが多い。殊に工業人に於いても大いに海外貿易に飛躍し各市場に威風堂々外國品と競ふ勇氣に缺けてゐる。此の秋我が泉州人にて世界市場に外國品對手に慧星のソレの如くに實に電撃的の光芒萬里を照らし精彩を放つは泉南郡北中通村中庄港に本社を有する合同シャトル株式會社専務取締役宇都宮敬次氏である。斯る俊傑世界的工業人を得たことは眞に泉州の精華であり、實に青年子弟の活きたる教訓であり、典型であり、龜鑑であり、亦泉州人が他に向つて大いに誇る所以である。合同シャトル株式會社は宇都宮氏の周到綿密着實なる經營振りによつて社員といはず職工に至るまで一絲亂れざる統制をみせ社運益々隆々たる發展を示し、優秀なる製品と、製産の大量とを以て全國はいふに及ばず海外市場に

て頗る好評を博してゐる。同社のシャトル一ヶ年生産量は一〇八挺にして、實に全國産額の六割を占むるといふすばらしさである。殊に新案たるトンダレスシャトルは絹織用として需要家の稱讃の聲的となつてゐる。亦輸出は遠く印度、南洋方面に及ぶ盛況を示し、同社の存在は斷然斯界の王座を占め燦然と輝き、其の營業方針の周到、同社の礎の強固には到底他の追隨を許さない。尙同社の姉妹會社たる和泉木管株式會社は泉南郡佐野町上新町に在り、創業以來社運愈々隆盛を加へり、専務取締役宇都宮氏の天才的經營手腕の偉大なるを如實に物語つてゐる同社の生産品亦優良にして他社の追隨を許さない特長はリングウエフト木管の「パイプレーション」の少なき事で斷然他品を凌駕し、廣く紡績會社から大好評を博して業績全く文字通り旭日昇天の勢である

湯川富三郎氏

白 濱 館 主
和歌山縣白濱温泉

敢て紀州と云はず、日本に於ける旅館経営者中の巨人と呼ばれ、又現代成功者と謳はれつゝあるものは、問はれずして白濱館主湯川富三郎氏なるを知るであらう。

實に氏は本邦業界のオーリツチーにして幾多の大旅館と雖へども何れも皆白濱館の一舉一動を瞻仰せざるなき有様は宛然群星中に於ける一大明星の煌々として光りを放ちつゝあるが如く亦ライオンの群獸に於けるが如きである。

真正の實業家

世の大なる富豪若しくは實業家と稱するものを見

るに多くは時勢の變遷に乗じて巨利を僥倖し、或は官僚と結び、亦は政府庇護の下に事業を營み、眼中國家なく、社會なく、唯だ自利に汲々として富を積みたるもの類ならざるはなく、之等を指して真正なる實業家亦は成功者として謳歌するを得べきや否や勿論世の實業家の成功の總てが斯の如しと云ふ譯ではないが、併し國家的觀念乃至社會公共の見地よりして事業を創始し、飽迄自力獨行、奮闘苦闘を積んで其の目的を達したる眞に成功者、眞の實業家と稱すべきものは甚だ尠くない、此の時に當り偶然にもあらず、僥倖にもあらず、將亦投機的資根的でもな

く、白濱發展向上を圖り、人類の福祉を増進せんとする湯川富三郎氏の如きは、初めて之を眞正の實業家の實業家と稱すべく、亦業界に於ける權威として我郷土史上に特筆すべきものである。

而も權貴に阿付せず、俗流を趁はず、不義の富貴を貪らず、誠實熱心身を挺して斯業向上發展に努力し遂に今日の大を爲すに至りしもので、亦之を眞に成功者と言ふべく、氏の事業の發展に伴ひ國民保險の貢獻を没すべからざるものと共に事業は人格の閃きであるから氏は現に湯崎白濱旅館協會副會長、白濱檢番組長、實業協會副會長、和歌山觀光協會評議員、白濱鑛泉株式會社專務取締役、報徳相互住宅株式會社取締役其の他の要職にありて業界の重鎮である。

氏は性頗る清快偉風堂々たる風采と玲瓏玉の如き品性を以て人に接し、人に阿り世に媚びたると云ふことは毫末もなく、而かも自ら驕り、又人を侮ると言ふやうなことはない、飽迄自立獨行、終始一貫、郷土白濱發展に涙ぐましい奮闘努力を續けてゐる。



徳は不詳に勝ち

仁は百禍を除く

(烈女)

河盛安之介氏

堺市長

會つてその政治的手腕とその才能俊秀と人格崇高の點に於いて稀に見る天下の名市會議長として市民の信望を蒐め議員中の花形と謳はれてゐた此の河盛氏は堺市長としての今日市民の信望極めて深厚なるものがあるを見るは、是も氏が人格識見の一端を物語る處のものでなくてはならぬ。

亦氏は應接の者にはいと快く引見される民衆的態度である。流石は永年自治、教育、政治界に活躍されただけあつて實に社交家である。

その温容、風貌又人を魅することあり、即ち徳を以て廉潔な性情を自然に發揮するやうに思はれる。能辯にして多辯を弄せず、一言一句悉く皆市民本位

實に花も實もある話のみ、時に時局の批評市政論すれば亦人生處生の道を説き、或は青年の鞭撻の快氣焰を聴し、その氣魄に稟とした處は或意味に於いて武士的であると云へる。

所謂花も實もある人と云へば恐らくは河盛安之介氏の如きを指すのだらうと思ふ。

河盛氏は對内的には徳望を以つて部下を統御の任を全うし、對外的には斯の如き頗る温情掬すべき應接と溢るゝ人間味で人を畏服せしむ、兎に角温情主義にして敵も味方も求めない、只幸にして自己の徳望と誠意が對者に迎合するならばそれで可なりといふ内剛外柔淡快俠氣な性格は現代政治家中稀に見る

床しい點である。

蓋しその生立ち、その閱歷、その人格識見、手腕力量の點から觀ても堺市長として申分のない良市長である。この良市長を有する堺市民諸君の爲め吾人は心から慶賀の意を表するものである。

河盛氏の家庭

人生至大の快は家庭の圓滿に依り得べきものなれども、悲しい哉、我國の紳士なるものは未だその眞味を知らず、彼等の家庭を見れば、妻女は空閑孤食を擁して燈影豆の如き處に流連幾日尙歸らざる良人を待たざるべからず。破籠大氣既に絶え空櫃飢へに迫るも貞婦の名を得んが爲めには夜半袖を絞つて尙孤獨の生を送らなければならぬ、若し妻に忠なる良人あれば、社會はそれを賞揚するよりは寧ろ輕侮の

眼を以てこれを視、新聞紙は冷笑の好材料として常に嘲罵を加へつゝあり、妻に甘いと云ふ事は寧ろ日本紳士の大耻辱の如く考へてゐる。

斯くして妻は愈々冷遇され、愈々虐待され、愈々戀行せられ、良人は益々遊情に耽る、紳士の家庭は斯くして腐敗しつゝあり、此の如き臭氣粉々たる紳士の間に我が河盛氏の家庭は實に純潔そのものである。

氏は常に家庭に起臥する紳士である、極めて品性の高き人である、慈眼愛腸の人である。

更に理想的の紳士である。温かき、麗はしき圓滿なる家庭のうちより由來偉人傑士が現はる。家庭の主人たる婦人慈母が、ホームイントラクションに負ふ所の多きは勿論ではあるが、温かき、美しき圓滿の家庭的原人は主人公たる男にある。

即ち男は之が家庭園の主人にして、婦人慈母は家庭園の帝王である、前者は快樂と慰籍とを恒に其の婦妻、愛子にも與へ、後者は其の天職の第一要務たるべきグットインランクションを兒女に施するのである。

是れ故に圓滿にして、麗はしき温かきホームには主人の篤行を要し、品性を要し、慈母も亦移山的の愛情、崇高の淑貞操徳を要するのである。

氏の家庭は極めて平和である。温良である。圓滿である。美園である。宛かも春風梢を吹いて流鶯の止まるが如く、誠に霽々掬すべきである。

氏は聲色を近づけず、端嚴自戒に至らざるはない、故に氏のホームには自然の高韻がある、まるで天琴の啾啾を聞くやうである、平居早野にして居常の故態、醜陋、没趣味なる者の家庭と比較すれば月鏡の

相違がある。

家庭の醜惡なるは嚴格なる意味に於て殺人的である、醜惡的である。

斯の王人倒るゝ所、醜態百出し宛然百鬼夜行の惡芝居を常に演ずるやうなコンナ劣惡の家庭こそ、この殺人、醜惡の仕事をしつゝある者である。實に憐むべき悲しむべきものは家庭の眞味を知らない偽紳士共である。

名聲は高貴なる

行爲の芳香なり

(ソクラテス)

朝倉孝之助氏

和歌山縣刀圭界長老
和歌山縣田邊町

人に人格の重んずべきは今更暇々する筈もないが就中醫を以て業とするものは最も愛に意を致さなければならぬ。一概に云々といふ譯には行かぬが、人の病氣の多くは精神状態に關係するものである。されば病人其者は醫師の提供する藥液が果して自己の病氣を治癒する上に於て適當なるや否やを自覺するもの妙し。何れも醫師の人格に信頼して天地も代へ難き生命を託するのである。

諺にも「病は氣から」と云ふことがあつて、彼の醫師の診察を受ければ必ず治癒するものであると確信すれば、藥の効き目よりは寧ろ其精神作用が治

癒上大いに効果があるものである。

又彼の醫師の診断を受けて治れば頂上、巖し不幸にして此の世を去つても本望であると云ふことは往々聞くことである。

憚る信頼を受くべき大責任ある醫師が利慾の爲めに匙加減すると云ふに至つては罪惡も是もより甚だしいことはない。

然るに近來醫道の類廢甚しく、徒らに門戸を張つて俗世間を眩惑し、金錢の爲めに大切な病人を愚弄し、胃病には塩水を注射したり、眼藥には蒸溜水を注して金を取ると云ふ惡徳醫師が世間に往々ある

やうである。

けれども當該病人は素人である、宜しく此の邊の事は醫師其の人の人格に信頼する外はない。而かも世間には人格の士が鮮くないと云ふに至つては實に慨嘆に堪えない次第である。

然るに偶々神秘的の醫術と崇高なる人格を兼ね備へ、其の天職を全ふしつゝあるものは和歌山縣田邊町に堂々開業する朝倉孝之助氏である。

氏は其の職務に非常に熱心であることは世に已に定評がある。

氏の神手に接し一代の運命を決せんものと患者は常に門前にゐ集し頗る盛況を呈してゐる。

氏は資性温厚篤實、患者に接して親切、加ふるに一種の趣味と愉快を以て診療に従事すると云ふに至

つては當今の醫界に稀に見るの人物である。



大丈夫良相とならざれば

必ず良醫とならん

(吉益東洞)

酒 井 淳 氏

温顔にして眼元に一種の愛嬌を湛へて其眞一文字に結べる口元より時に警句を吐きて四座を壓する概あるもの之れぞ酒井淳氏の片影である。

偉人か否らず、ハイカラか否らず、さりとして如才なき人にもあらず、悠々迫らずの常に温情の掬す可きものありて一個の君子の風あるもの之れぞ酒井淳氏が他の片影である。

氏は天下の温泉湯崎温泉湯井家の主人公として居常輕快頗る民衆的の紳士である。

其他、報徳相互住宅株式會社専務取締役、白濱礦泉株式會社取締役を兼ね南紀財界の第一流の紳士に計上さるべきものなれど年齒未だ壯、其前途多望な

るの點に於いて亦新進の俊者なるを免れず。

氏の持長とするところは氣取らず、衒はず、毫も尊大の風なく亦勿體振るが如きの態度なく、洒々落落として其知と不知とに論なくよく談じ、よく語る其極めて民衆的態度こそ氏が今日の聲名を博せる所以にして又一般の氣受け善き理由である。

旅館協會長としては餘り應揚ならず、重役としては餘りに尊大振らず、専務としては其社の福利増進の爲めには忠實に、取締役としては常に其社に出入して社員を指揮督勵して孔々として倦まず、力めて己まずとは蓋し氏の如き人を謂ふ、眞に世に紳士らしき紳士とは氏の如き人を謂ふのであらう。吹けば

湯崎温泉 酒井家主
和歌山縣湯崎温泉郷

飛ぶ翫々たる才子が幅を利かす今の世の中に謹厚眞
摯、氏の如きは牢に觀る所である。

氏は表面非常に温順なるも心中確固たる信念を有
せば奮然と起ち郷土愛の爲めに常に熱血を燃し氏は
一たび理なりと感じ、道なりと感ずれば其一身は忽
ち白熱を出し無二の至誠を捧げて敢然として血戦す
るに至る。故に世人が氏を評して精神家なりと言ふ
惟ふにかゝるほどの人なれば今度旅館協會長選ばれ
るや何かの一策を出して天下の名郷湯崎白濱温泉の
經營の一人として義を立て自己の理とする所を理と
して實行して、郷土のヨリ良き發展に一の功業を立
てんとしてゐる。

氏が一事に當りて其計劃を遂行するや指揮統一奔
走感あらざるなり、余は左に氏の特徴を擧げて數ふ
即ち

一、衆心を一致せしむること、氏衆心の一致を計
り秩序を立て、鼓舞自在である、斯くして衆心
一時に勇み立つて見るや號令一下三軍立所ろに
脚を含んで進む。

二、人の力は之を區別して用ゐるときは片々の珠
玉徒らに泥途に悉して力を成さず、人心は一に
合すれば風なり、氏之れを知り之れを實行す。

三、氏は極めて用意周到にして細心堅實である。
以上は氏の概評であるが、此の名協會長を得たるこ
とは湯崎白濱の爲め衷心慶賀の意を表するものであ
る。

川元爲次郎氏

岸和田市北町

濁流滔々として天下に漲り信仰あるなく、主義あ
るなく、動けば即ち名利に依り、走れば即ち權利に
向ふは現在の世相である。

由來岸和田人士にして特に名利に敏く確信あり、
牢として抜く可からず、熱血ありて身心靈肉擧つて
之れを斷々乎として所信を行ひ、艱難に挫せず、障
碍に屈せざる人果して幾人がある。

而かも茲に資性謹嚴にして篤實、行爲廉直にして
世に媚びず、人に詔はず、自助、自立の念厚ふして
而かも耐忍進取的にして果斷に當む、我が川元爲次
郎氏を觀る。

氏は現在岸和田市北町に古から小問物、諸高級雜
貨を手廣く營み傍ら市の産業發展の爲め岸和田市商
工會の幹部として常に奮闘努力、其人格と手腕と熱
誠は遂に全市民の認識するところとなり岸和田市第
二期市會議員に選ばれた、市會議場に於いても常に
公平無利市民本位に終始し模範公人として全市民よ
り多大の信望を蒐めてゐた。余も亦當時市會議員の
末席を汚し氏と常に行動をともしたが、氏が言論
に於いては不得手の方であるが諒々として説く其の
言論には實に花も實もある市民本位の主義政策のみ
であつた、故に議員間に於いても隱然重きを爲して

みた。

亦氏は非常なる敬神家にて靈火的信仰を有し常に神社佛閣の爲めに多大の犠牲と努力を割いて吝まな
い有名な人である。

全市民の信仰の中心である岸城神社、菅原神社の
境内に神樂殿其他種々なる壯麗美麗な殿堂を自ら發
起となり淨財募集に日夜奔走し遂に今日の如き神嚴
なる造營をなしたのである。

岸和田市の如き物質文明の發達したる土地に氏の
如き大なる敬神家、精神的奉公を爲す人の在ること
は寧ろ奇蹟的存在である。

氏は資性謹嚴、温順にて身に粗服を纏い一見雜役
まの如き感あらしむことも時に見受位い勤儉力行の
人である。

世に眞に青年の訓育の活きたる典型と云へば余は
先づ第一に川元爲次郎氏を見做へと叫びたいのであ
る。

正義と共に生ずる人は

何れの處に居るも安全なり

(エビクテイトス)

田 中 德 藏 氏

和泉紡績株式会社忠岡工場
泉 南 郡 春 木 町

従來我國の悪習慣では兎角工場主腦者を低く見て
ゐる、何か社長の下に在りて機械的に命令を傳へる
ところの木偶の如く見たのである。

併し歐米諸國の良習慣では、此の工場主腦者が最
も重要な地位に居るので、會社の信用は一に此の工
場主腦者に其の人を得たと否とに存するのである
實際は名望隆々たる社長級に於いてするよりも寧ろ
工場主腦者の人々にあつて其の多くを得らるもので
ある。

社長は所謂金と社交上に於てのみであつて事實人
格力量、手腕を以てゐるのは社長以下の人々に在り
現在泉州紡績界に於いて實際手腕家として隆々た

る信望を博してゐるのは泉州第一の信用を有する和
泉紡績株式会社忠岡工場田中德藏氏であらう。

氏は泉南郡春木町の人にして年少同社に入社し以
來今日迄殆ど人生の過半を同社の爲めに捧けて來た
のである。實に氏は會社を思ふ至誠、而して同社が
氏を愛する全幅の至篤は、兩々相感應して勢ひ膠漆
たらざるを得ない。

氏は同社の爲めに殉すべく、社も亦氏の爲めに欲
する所を與へんとするのは決して偶然でない。

氏は今や重要されて庶務主任である、氏の學歴、
手腕、才能は必ずしも人を驚かすほどでもないが、
而も極めて誠忠、極めて眞面目に會社大事と至誠一

心を以て仕へたといふに至りては頗る多とせざるを得ない。

更に之を社會風教上より見て氏が社の爲めに捧げたる熱誠は如何に多くの人を感化したることよ、尙し貞婦烈女義僕の徳を表彰する、國家の意思が果して何邊にあるかを知るものは氏も亦甚だしく有徳の士とせねばならない。

氏は實に善人である、善人良夫の心には誠實の神が宿り、幸福の神が見舞ひ給ふのである。

氏は必ずしも人格の高い人でない、左りとて又卑下の人でもない、氏の全渾は熱誠と忠實との凝りである。

氏の眼中には和泉紡績以外に何物もない、氏の感念は二十數年來の氏を支配した處の習慣天性となりて氏の心に結着してゐる。

氏は極めて厚良の紳士である而も社交、智識才能は氏の天品として氏に授けられてゐる。氏は社交に於いて泉州紡績界の第一位に居り、亦工場も主腦者として適材の人たることを認められる、而して氏の將來は少なくとも和泉紡績の柱石として起つべく運命の神は氏を手招きつゝあるものである、氏たるもの一層忠勤を勵みて可也。

田端源三郎氏

田端製線所代表者
泉南郡佐野町

規模の大、營業の盛、泉州の事業界に嶄然一頭地を抜き、斯界の霸王と呼ばれつゝ、あるもの田端製線所にして業果の一方の重鎮である。

其の基礎の堅實にして施設經營の進歩的その責任の強いこと、之を一流會社に比するも敢て遜色なしと稱せらる、蓋し成功は偶然に來らず事業は必らず人物に俟たざるべからずとせば、是亦その經營者中に優良なる人物の存在するに因るものたることを相像するに足るべく、即ち其の代表者田端源三郎氏の手腕識見が當今業界の群豪を抜きつゝあることは既に世の定評である。

故横田千之助氏は曾て余に語つて曰く、「凡そ大丈夫の世に處せんとするや、政治家にあれ、將又實業家にあれ必ずや献身的の乾分を有するに足らず」然るに之の感を固うするもの獨り横田氏而已ならずや、然るに偶々爰に事業肌の雅量を有する田端源三郎氏を得たるは群鷄中の一鶴として吾人の大いに快哉を禁する能はず所以なり、泉南郡に新進氣鋭の事業家肌の人物少くなしとせずと雖も氏の位い献身的に而も氏の爲めに命をさしけると言ふ多くの乾分を有する者は氏をおいて他に絶對に無しと斷言しても敢て憚らず、氏は此の献身的の乾分を有することが

延いて業界は勿論佐野町政界においてもメキ／＼と賣出したる一つの原因である。

氏は豪放にして膽は斗の如く、智は神の如く人を容ること大海の如く而かも義氣と同情に富み、總て他人の爲めに謀つて自ら快とす、若し氏の手腕を以て普通の商人の如く私利私福を念として事業に従事してゐたならば今頃は莫大なる資産を造り上げてゐることは必然である。

けれども氏は決して私利私福を圖ることなく徹底徹尾社會公共と人を造ることに全力を注いでゐたのである。俗臭粉々たる泉南事業界に斯かる人間味豊かな高朗清明の若き事業家を得たることを我が泉南の誇りであと云ひたいのである。

百戰百勝は善の善なるものに
あらず戰はずして人の兵を
屈するは善の善なるものなり

(孫子)

高 島 俊 治 氏

大同電力株式會社囑託

女は男に従ふものである、女の従ふといふのは女の奴隸たるにあらず、女の性の然る可きものである人間の中には幾多の種類あり、幾多の因縁ありて朋友も生じ同志も生じ主従も生じ知己も生ず。

然れども是れ自然の合性といふものに由りて分る刻と剋と合へば相討つて火を生ずるに至り、鐵の如き意志のナポレオンには柔和なる秘書役の必要である。

漢の木強、漢には張子房の如き周密なる思慮ある良參謀を必要とす、人の中には名を取る人質を取り即ち土臺となる人もある。

高島俊治氏は何人ぞや、楚々たる一風才子の如き

人にあらず、秘書役としては適材なるも器度知る可きのみといふは未だ氏の氏たる本分を知ること能はざるなり。沈黙せる氏、柔和なる氏、女房役たる氏は氏としての本分を最も理想的に發揮するものなりとせば如何氏も亦一人物にあらずといふ可からず。

故渡澤男は在世中が日本百般の事總世話役として立働かるが其道具建に苦心し其間に取次となり用具となつてゐた、高島俊治氏大同電力になくはならぬ名秘書役であつた、現在の名目は囑託であるが事實以前と變らぬ秘書役の仕事をしてゐる。

昔森蘭丸は織田信長の寵童であつた、才氣群輩を凌ぎたるは明智光秀と如何なる確執を生じたか、部

下人材の如何に由りて其主人の運命を危くし事業を
亡びに導くものあり、大同電力が其社員、秘書役の
良否は大切なり。余は秘書役に一つの定義があり。
曰く

- 一、社長たる人に愛せらるること。
- 二、風采舉動の目憎くからざること。
- 三、人事及社會的常識發達して社長たる人の用
務に事欠かざること。
- 四、圭角なく温順にして社長たる人を形とすれ
ば影となり得る人たること。

以上の要素を備ふる是れなり、秘書役に共通なる資
格といへば先づ如此く云ふのである。秘書役の任務
は我が儘や怠惰者や短氣者や粗略なる者の勤まる可
き事務にあらずして此に掲ぐるが如き四個の美點を
併有するにあらざれば夫れ不可能たる可し。高島俊

治氏は單に秘書役としてのみならず已に廣島電燈其
他二三會社の重役の肩書を有してゐた。

氏は大同電力の會では秘書役であり現在尙且つ名
は囑託なるも事實秘書の仕事をしてゐる。

然し氏は他の秘書役の如く社長や専務、常務の外
套を取り帽子を持つが如き風の秘書役にはあらずし
て温雅なる紳士である。千波萬波、波瀾曲折の多か
つた大同電力株式會社が今日の如く強固なる地盤日
本電力界の巨星と燦然と光るも高島秘書役に負ふと
ころが多くある。

池添辰之助氏

岸和田市會議員
岸和田市別所町

玉の如き人格、燃ゆるが如き熱情、破竹の如き剛
直の持主、我が池添辰之助氏は岸和田市政界のみが
有する誇りの一つである。腐敗墮落して顧られざる
現在の市政界に稀に見るの高潔の紳士として市政界
隨一の逸材たるを失はない。家には相當の恒産を有
し、別所町の池添と言へば市内に於いても唯一人と
して氏を知らざるものがない、而も新界第一人者と
して絶大の信望を奴肩に集むるに至つたもの、何が
氏をして今日の市民間に絶對的信望と家運日に月に
隆昌に赴ける因や、必ずしも氏が縦横に馳する非凡
の才量と誠實そのもの、如き至誠の賜たることは言
を俟たずとも明である。氏に特筆すべきことは市政
問題に對する確固たる信念を有し深遠なることであ

る。余も又屢々氏の政見の一端を拜聴し、其の主義
政策の市民本位にして、而も該博たる智識と明快な
る論理には敬服する一人である。故に氏の一言よく
市政を支配するものありたり。氏は一見平凡のやう
に見受けるが心中に確固たる信念を得ば猛然起つて
自説を固持して止まざる頗る意志の強固たることは
現議員中に於いても稀れである。今春一月に行はれ
た第四回市會議員選舉に際しては善良なる池添議員
を市政壇上に送るべきは市民當然の義務なりと全市
民間に白熱的輿論が起り、他の候補者が七轉八倒の
苦しみの結果當選したるに抱らず氏は常に悠揚迫ら
ず綽然として當選したるは如何に氏が市民間に絶
大なる信用を有せるかは雄辯に物語るものである。

佐々木勇太郎氏

南海鐵道株式會社取締役
大阪市住吉區阿部野筋三丁目

人格は人たるに於いての第一要素なり、宛かも國家として、一國として、一市町村として人格を要するが如くである。

人格なき人は人にして人に非ず、人格は猶天使のやうである。氏や親しむべく狃るべからずで誠に人格崇高の人にし期せずして自ら襟を正さざるを得ない、肅然として敬を拂はざるを得ないのである。

人として人格を造るの要義は修養と讀書の力にある、讀書の力は平凡の人をして克く向上せしめる、而して向上の意義は人格と相通する故に讀書は知らず識らずのうちに其人をして克く人格の人となさしめる。

める。

氏は當代稀に見るの讀書子である、其智識の該博にし而して総合的である。其の單調であつて而かも無数の趣味に富める其人格の飽迄偉大であつて而かも細心なる其家庭の春風和氣にて而かも規律的である、皆之れ讀書的智識の煥發轉化に外ならない。

氏は多年南海鐵道株式會社の専務取締役として敏腕を揮ひ南海の生字引として重寶がられてゐる。

某老實業家は余に語つて曰く

「佐々木氏の如き重役は資本案の方に於て平身低頭手を合して資本の番人に頼むなり、何となれば資

本家なるものは自己の資本の一日も有利に安全に活動することを望む、然るに佐々木氏の如き人に托すれば此の目的が完全に達せらる」

と人間の信用も此處に至れば人以上のものである氏は非常に人格の高朗清明の紳士なるのみに觀て世人は唯平和の一紳士の如へ思へどもかゝるは深く佐々木氏なるを知らぬものゝ言である。氏の兩眼は異光ありて人を射るものゝあり、氏の微笑を漏らしつゝも靜かに語る言葉の語句の間には儼として秋霜の如く清且つ烈なるものあるにあらずや、天曇りて秋風蕭瑟として至り枯葉落つといふ所に佐々木氏の氣象の大部分を觀る、故に表に濃厚なる一君子たる氏は其眞骨髄に於いて無比の精英である人南海の重役生字引として有名なる氏が他の俗臭紛々たる華城

實業界の偽紳士の如く紅燈綠酒に親しむことなく堅氣一方の處世法は萬人が敬して止まざるところである宗教家と教育家の中君子人も氏の美行狀には及ばず、眞に世の儀表として誇るに足る君子人である。

讀書を好むに非ずんば
賢なる能はず

(ジョハソ)

佐藤太氏

大同電力株式會社
電務課長

温言春風の如く、温容玉の如しも古いが風影堂々として人格高く而かも頭腦明晰にして恰も快刀亂麻を斷つ手腕を有し雄節夙に信義を重んずる實に我が電力界に稀に見るの人物である。

氏は大阪電力株式會社の主腦部に在つて得意の敏腕を揮ひつゝ、あつたが同社が大同電に合併するに當り多くの俊秀社員の中から其人格と手腕と力量を認められ現職に榮進したのである。

就任以來得意の手腕と鮮やかなる社交とを以て非凡なる實力が益々異常の業績を擧げて居る。其手腕の非凡を愈々認められ爲めに同社は勿論其他業界に

於いても頗る信望、徳望の厚きは更に偶然とする處でない、而して之れは決して過賞でもない、一度氏の風容に接したものは必ずや余輩なき推獎するヨリ以上のものを感得することは更に疑はない。

吾人は電力會社の心臓部である電務課に氏の如き横溢せる覇氣、才氣に富む課長を得たることを大同電力の爲め衷心欣び、しかして氏が業界の異彩たらしむことあるを確信すると共に其期の速かならん事を切に期待するものである。

村田正晴氏

南海興業株式會社
泉南郡八木村箕土路

基礎の鞏固と信用の宏大を以て我が競馬界に君臨する梅鉢楠太郎氏を社長とする南海興業株式會社である。

而して同社に缺く可からざる有用の器材たりしものは我が村田正晴氏である。器材は心的生物である其の進展向上はその本性である。此の點に於いて一段の要素を村田氏の爲め望むものである。

氏は良と珍とするに足る君子人なり、即ち意の誼るべからざる所の斐たるにある君子人である梅鉢社長は一切の代理を務むるものは氏なり、而も克く此の重荷を意とせず、却つて全渾の智囊を盡くして、

之れが重職を辱めざりし氏は確かに競馬界の偉人である。

士は己を知る者の爲めに死するを以て、却つて屑とする。氏の如きは確かに丈夫である、亦氏は我が競馬界の須要の人物にして南海興業株式會社は勿論我が競馬界の離すべからざる逸材である。

眞智は斷乎たる決定にあり

(ナボレオン)

中尾文三氏

望海樓 經營者
和歌山市新和歌浦

天下の名勝、新和歌浦を知らんものは恰も富士山を知らんやうなもの、其天下の絶勝新和歌浦に偉風堂々君臨する望海樓を知らんものはこれ又大阪に三越を知らんもの同様である。

實に現今日本の旅館業界の中で新和歌浦望海樓中尾文三氏の名は「カタイ屋」として信用を擅にして更に望海樓の客筋も亦「カタイ屋」を以て社會に知られた人々のみである。

中尾氏は何故に斯くまで社會の信用を博したのであるか、今日の望海樓なれば無論之れだけ信用を受けるのは當然ではあるが左にあらすしてツウト以前

望海樓のヒヨロ／＼時代からして此の信用され結局其信用なるものが大なる資本となり、後援となりて多くの同業の上を越す位に大きくなつたと云ふのは餘程趣味のある話だと思はれるのである。

經營者中尾氏は誠實一遍の商賣勉強一點張りの人である、創業以來今日數十年間といふものは御客に對して少しの迷惑を蒙らしめた事もなければ不正の手段と奸策を弄して不正の金を攫んだこともない。

飽迄誠心誠意土地の開発と旅館業は純然たる社會事業である、社會事業なるが故に其の使命を果さなくてはならぬと云ふ強い信念の下に營業を續けて居

るので決してボラないと云ふ心の鏡前をキメ付けたそんな確實な遣り方だから客人は「望海樓」なれば安心なものだと信用するやうになり、商賣は益々繁昌する。繁昌するに連れて館は旺んになる。盛んになるに連れて信用は倍々加はりてくる。信用が倍加するに連れて氏の身代は太くなる。身代が太くなるに連れて客筋が目ずとよくなつて来たといふものがある。客人の側から見ると旅館のカタイ屋を選ぶのは當然である。

氏は心事公明天真爛熳にして常に和氣霽然として親善を旨とし、温厚篤實、經營上に特別の手腕を有する近來稀に見る人格の士である。

人生は勞力を費さざる

人には一物をも與へず

(ホーレス)

知者は希望に依り

人生の苦痛を忍ぶ

(ユーリビデス)

牧村惣太郎氏

岸和田市會議員
岸和田市沼町

岸和田市政壇上の雄鎮として隆々たる聲望を収め陸離たる光彩を放ちつゝあるものは我が牧村惣太郎氏である。

蓋し其の常に市の福祉増進と市の休戚とを究め、一事一物熱誠を以て臨まざるはなく清麗高潔なる思想を以て起つに由るものである。

氏は岸和田市沼町の舊家牧村家に生れ、青年時代より實業家に志し、金融會社、綿布、製材事業を経營し着々として成果を収めてゐたが昭和六年一月十二日岸和田市制第二期議員改選に當り、全市民の切實なる希望に依り立候補せし處無難にて當選し一期間誠心誠意を以て市政の爲めに盡し、本春一月第四

期改選に當り再び立候補し之れ又當選の榮冠を贏ち得、市の各種の名譽職に重任し、その熱誠貢獻の蹟は尠少なからず。

資性濃厚篤實にして、人に接するや極めて懇切、能く謙讓の美德を備へ曾て倨傲の風なく、毎に公共の爲めに一身を挺して力めざるなく謹嚴慎重公益を圖りて黄白の爲めに其の主義主張を枉げず、故に市民皆其の徳を讃へて服せざるなし。宜なる哉、岸和田市民舉つて氏あるを以て誇りとす。

梅鉢楠太郎氏

梅鉢鐵工所主
堺市並松町

日本の汽車電車自動車製造界の巨星、梅鉢鐵工所が關西鐵工業の覇たるは今更喁々を要せず、其の經營たる事業圏は實に我國業界の白眉にして、その經營振りの周到綿密を極め、従業員優待に關する遺憾なき設備と寛容鄭重なる社員優遇方法とは今や漸く首尾脈絡完全し、宛然一大掌陣の如く起倒盛衰定まらなき事業界に於いて、駁々乎々一絲亂れず、進展の歩武を示しつゝある。

業績に到りては眞に稀觀の偉觀にして、徒らに巨資本を擁し、膨大なる規模を有し、而かも經營に困難し左支右吾して僅かに事業の命脈を保持するに汲々たるものに比し全く其の選を異にし、我國鐵工業

を語るものをして夙に代表的鐵工所たる稱讃と崇敬とを拂はしむるもの又宜なりと謂ふ可し。

而して同工場の今日あるは實に經營者梅鉢楠太郎氏が一意一業主義を奉じ、全心力を其の經營に傾け苦心案劃、向上發展の理想に邁進し、他に重役及び社員諸氏亦協心戮力、社業の興廢を以て一身の榮辱とし、努力を傾注し、延いては労働者の發奮を喚びたる結果に外ならぬ。

而かも同工場の方針たる隨時梅鉢所主が發表せる意見抱負に依りて窺知せらるゝが如く切に斯界の北斗たるを期するに在りて、その今日の成果は梅鉢氏以下従業員に到る數千人が創立以來粒々辛苦の

結晶たる亦能く世の知る處たり。

然れば同者關係者諸氏の決心覺悟は所謂彼の網利賣名の實業家と異り、眞に懸命を極め、曾て宣明せるが如く同所事業を以て生命とし、専心一意此の一事業に全心力を傾注し、粉骨碎身工場の發展經營設備の向上を念とし、一路この道程を辿れるのみ他を顧みず、従つて同工場成績がまた他工場、他事業の容易に企及し得可からざる諸多の優點を有し、駁々乎々として日に月に進展を重ね、着々として社業擴張の餘裕を示し首尾一貫規模の充實に努め、製品の聲價益々高く、市場に於ける隆々たる信望を窺め得るのも全く其の卓越せる經營の結果たりと謂ふべく終始一貫巨然として正々堂々と其の足跡は巨人の夫れにして眞に王者の歩みと謂ふ可く、同工場がいまや業界の覇者に非らずして、王者を以て稱せらるるの

もその所以たり。

純家族主義にして上下一致 工場は繁榮は緊つて従業員を骨を惜しむか否かにある、従業員が工場至寶であるから我子よりも大切であることは梅鉢氏の意見で、その待遇に至り悉せりであるから従業員も亦主人を思ふ事一方ならない、之れが毎日々々の工程に大影響を及ぼすは勿論である。

梅鉢鐵工所の今日の隆昌を來たしたのは一に梅鉢氏等の力にありと言へ、一従業員に至る迄萬死且つ辭せざる底の奮闘も又大いに與つて力あるものである。

氏の温情主義とせる家族主義の感化を受けて、上下能く一致し、従業員中には創業刻から引きつゞき勤務しつ、あるものも少なくない、之れを以つても如何に上下親睦して業務の發展優良品製造、販

路の向上に努力しつゝあるかと推測される。

梅鉢楠太郎氏世の人を論ぜんとするもの往々創業の人物に偏し、守成の人を輕視せんとするの風がある。素より艱難刻苦自ら其のけいらつを拓き、磐石錯節を排除して新にその業を創むるといふことは最も至難の事に違ひない、然れ共彼等の境遇は單に現狀維持を許さず、進取敢爲の止むなき原動力を持つてゐる、故に進めば取ると言ふ原則もあれば、艱難汝を玉にすと言ふ諺もあるのである。

然るに守成の一方に至りては既に相當の地位に進み、如何に非凡なる才能があつても夫れ以上前の行程は到底經驗することは出来ぬ、言はゞ前者の原動力に對する情力であつて最早退歩の境遇に瀕してゐる譯である。殊に前者は目的を達すれば非常なる喝采を博し、若し失敗に終らとも敢へて己に損すると

ころなく、世人も亦之れを非難するものもない、然るに後者にあつては進むも格別、世の稱讃に値へずと雖も一朝退かかんか、非難攻撃、忽ち亂射亂撃が雨と降る。

而已ならず、祖業を顧み家名を思ひ萬一のさてつを慮れば、特に或は意のあるところを敢行する能はざる場合もある。故に古人も創業難きか、守成難きか、判断が出来ないと云ひ、山崎闇齋の如きは貧賤の家に生れたるものは何よりの幸福であると言つてゐるのも要するに此の間の消性を説いた者であらう我が梅鉢楠太郎氏も又守成の人にして大梅鉢の二代目として寸分申分なき好個の人物である。

氏は梅鉢安太郎氏の令嗣にして家業を擔當し、主任の地位にあつて工場的一切を統轄して、毫も違算はない、而已ならず、祖父の後を享けて以來益々隆

盛を見せつゝあるを以て見れば、その手腕の程も窺

ふに足るべく追がに名家に生れ、名家の育ちだけありて風采も大いに揚り、氣品は高尚で、又應揚寛潤として一見貴公子の如く見ゆるも性は淡如として人に接すれば克く談じ、克く語り奇警縦横、而かも思慮は甚だ周密、頭腦は明晰で行ひは穩健着實、随つて其の才能は守成的又事業整理的方面に生じ邁往慕進の人には見るべからざる美點がある。

氏は未だ活動期の壯年にして關西界に於ける壯者にも拘らず、社員及び数千名の従業員界から多大の尊敬と信頼を享けつゝあり、前途洋々春の海の如き氏のことであるから必ずや近き將來に一大飛躍の期が必到するであらう。

吾人は同家の爲めに此の好後繼者を得たるを心から慶祝すると共に日本の實業家として大いて將來を

嚆望する所以である。

親を愛するものは敢て
人を惡まず
親を敬するものは敢て
人を慢らず

(孝經)

中野友三郎氏

春木町會議員
泉南郡春木町

中野友三郎氏は泉南郡春木町會議員にして町の權威者である。資性は純真にして高雅、廉潔にして謹嚴、眞摯にして着實當代稀に見る好紳士と云ふべきである。氏は非常に世話好きにて好んで他人の難に赴く義侠と熱と勇氣を有する快男子である、常に正路公道を直行すると云ふのが氏の性行である、かやうな性格の人は得てして偏狭に陥り易いが氏は此の限りにあらず。

宏量で開放的である、人に接しては決して上下貴賤の別を設けず應接されるや温顔温良人を春風胎蕩の感を湧き出せしむるのも氏の人格の賜ものである。現在クレ粉を手廣く販賣してゐるが其營業方針迄

氏の人格が反映し其營業方針の堅實、基礎の強固、販賣品の優良等の點に於いても斷然他の店の追隨を許さず、今や泉州は勿論大阪府下一圓に於いても中野氏の右に出づるものなき迄盛大に到つてゐる。亦町會議場に於いても常に公正な意見を持つと雖も氏の主義政策は所謂無産大衆の利益と幸福の爲め終始一貫したる政策を以て町政に參與してゐる。こんな譯だから中産階級以下の町民が氏に對し絶對的信頼し氏を観ること神の如くに敬し慈母の如くに慕つてゐる、故にいつも改選毎に最高點を以て當選するの故なきにあらず、更に土地會社其他の事業にも勢力を張り今や旭日昇天の勢である。

仲谷辰次郎氏

織 布 業
泉 南 郡 日 根 野 村

世に少しく産を成すものあれば其手段を撰はず目的を問はず一概に實業家又は成功者と謂ふ、然れども其意義や廣汎にして容易に之れを首肯することは出来ぬ、何となれば第一に種類と程度との問題を生じ至細に之れを観察すれば世間を眩惑してゐる、富者にして尙眞の成功者を以て目すべからざるものあるからである。

一例を挙げれば投機場裡に一擲千金の巨利を勝ち得た相場師輩もあれば、無理に貯ふるを知つて出すを知らぬケチ臭き富豪もあるからである。

眞の成功者は事業に於ける成功者たると共に又、心の成功者たらずんばならず、眞の富者は金力に於

ける富者たると共に又心の富者で無ければならぬ、此の點に於いて仲谷辰次郎氏の如きは眞の富者であり眞の成功者である。

氏は大阪府泉南郡日根野村の産にして早くより機業家に身を投じ機業王國泉州機業界の一方の巨豪である。

氏は現政友會の重鎮として花々しく中央政界に活躍する和歌山縣選出代議士或は郷土海南市に於ける事業家として有名なる玉置吉之丞氏等と大正九年一月總資本二百五十萬圓を以て本社を和歌山縣内海町に置き分工場を泉南郡内に四工場を設け更に全郡尾崎村に紡績工場設置（現内海紡績株式會社）の議が

起り社長たる玉置氏は仲谷氏の人格、識見、手腕を信頼し一切を托し五十圓内外のプレミアヤムに忽ち滿株の盛況裡に締切つたこともある。

此時玉置社長は初めて仲谷氏の地方の信認の重厚には一驚を喫し、余に對して玉置氏曰く「此忽ちの盛況は實に泉州機業界第一人者仲谷辰次郎氏名に依つて成立したもので同氏の實力の意外に大きいのは眞に驚嘆の外はない」然り玉置君の言の通り仲谷氏の富より其人物を地方が買つたのである。

實に仲谷氏は泉州機業界に盡したる功績は筆舌に悉せない、更に氏機業界のみならず社會公共の爲めに會つては日根野村教育基金として一萬圓を寄附し日根野村教育の根本義を確立せしめ、其他あらゆる方法に金錢を吝まらず有意義の事に對しては自ら進んで提供し其事業を助けてゐる、世にも珍とする實業

家である。

而かも氏には嗜好と道樂がある、而かも其嗜好と道樂は自己のために爲すにあらず、之れ皆天下國家の爲めに後進子弟を養成するを以て道樂の一としてゐるが如きは珍とするに足るではないか、孟子は君子の三樂を説いて天下の英俊を得て、而して之れを教育すると云ふ、蓋し其樂を孟聖と齊しうせるものが故に氏の工場従業員は常に和氣霽然としてゐる、氏も又徳の孤ならざる人乎。

北村彦三郎氏

自轉車部分品卸商
岸和田市北町

現在岸和田市香泉州一圓に於いて若手と頭のよい事と營業方針の堅實と販路廣大によつて其名を知られてゐるのは北村彦三郎商店である。

氏の經營にかゝる北村商店の販賣品目は自轉車部分品一切にして卸小賣を手廣く營業してゐる、本業の外に關西チエン界の最高峯として名聲赫々たる株式會社和泉チエン製作所の取締役として泉州財界に重きをなしてゐる。

氏は泉南郡下莊村箱作の産にして大正四年岸和田中學校第十四回の卒業生である。元來氏は非常に智能が発達してゐるので營業振りも總てが合理的である點と店員も店主も差別のないといふ温情の溢るゝばかりの店は廣い泉州にあるのみと言ふても敢て過

言でもあるまい、岸和田市に於ける信用は勿論であるが地方的の信用も事の外厚く北村商店なら大丈夫だ一と確い店で押しも押されぬ大商店である。

而して不憚不屈の意氣眉宇の間に溢れて明敏なる頭腦と發達せる常識を加へて事に臨みて躊躇せず、難に處して奮然起つて善處斷行たる行動に出づるは人を驚異讚嘆の聲を發して止まざるものがある。

亦政治的方面に於いても松田竹千代代議士の良參謀として同氏の爲めのみならず國政の爲めに常に働いたる力を致してゐる。岸和田市會議員改選毎に市民より推獎されても頭として氏が應ぜず意中の同志を援助としてゐる近時の青年に稀らしい心床しい人格者である。

森 武之助氏

森 醫院々長
泉北郡南池田村

古きを尊ぶ我國の風習は、家柄の古きを以て社會的の尊敬を受け、又商人が老舗を重んずることも甚だしいが、此れと同時に刀圭家の如きは尙更家柄が必要である。

その一例を挙げれば、ロンドンの或る名高き老醫の談に曰く「私が醫師になつた初めに、パーソロミエ病院に居た、所が或る日一人の患者が田舎から來て、こんな不思議な腫物が出來て、田舎の醫者が一癒さぬ、ソレで態々貴院へ参上したので診察して下さいと云ふ。

そこで早速診察したが、實は私にも分らぬ、如何にも不思議な腫物である。ケレ共職務上分らぬとも

云へぬので、よい加減なことを云つて御茶を濁し傍らにありし膏藥を塗り付けて歸した。その膏藥は豚の脂に何か少し入れたもので之より大したものなかつた。

然るに翌日患者がヤツテ來て大きに具合が良いと云ふ、診察して見ると、先きに眞紅なりし腫物が大變に良くなつてゐるので、又豚の脂を付けてモウ直に癒ると云ふと、患者は流石に名高い病院だけあつて偉らい、田舎の醫者では癒らぬが、當病院へは一度來た丈でコンナに癒つたと悦んで歸つた」此の談話は所謂爾の信仰、爾を救へりで、病院の老舗が精神的に治癒したと言ふ告白である。

這は然し獨り西洋の話だけではない、我國は尙更ら家格は必要である。

されば森武之助氏の如きは府下に於ける古い開業醫であつて、南池田村の森醫院と云へば府下醫院の代名詞たる感があるに至つたものである。

氏の温顔を見たゞけでも病氣が癒つたと云ふ患者がある。斯くの如く病める者より絶對深刻なる信頼を受けてゐるのである。

氏は岸和田中學校に學び、四年にして大阪醫科大學に入りたる俊才である。昭和二年卒業後堺市公民病院の外科に實施研究に従事せられ、青年醫學の學徒として其の手腕を認められ、名聲赫々として輝きたるうち、郷土有志の懇望によりて現地に獨立開業したのである。

開院以來日増しに先生の手腕を信頼して、遠近よ

り續々と診察を乞ふ者押しかけ、門前に市をなせり是れ全く氏は學理に精通し、又臨床家として特殊の技能と、而して崇高なる人格と無限の愛情と無垢の心魂とを有するが故である。

現に南池田村小學校、池田村の囑託醫であり、村民の公衆衛生の爲め偉大なる功績のある名醫である資性恬淡寛慈、當今醫界の弊風たる利害の爲めに患者に阿諛する習問的のものと異なり毅然として醫界の神聖を重んじつゝあるが如きは、腐敗墮落の刀圭界に稀に見る人格の士である。

阪 口 祐 廣 師

正 覺 寺 住 職
岸 和 田 市 宮 本 町

二十世紀の才智は最早地獄極樂を説いては満足せぬ、今や宗教を信仰せんが爲に進んで研究するものは却つて本職の宗教家以上の智識を持つて居る、隨て昔風に無智文盲の善男善女を集めて單に感情的にお釋迦様に金色の御光が映ずるとか、西方十萬億土の處に御座る杯と言つて居ては最早隨喜渴仰するものでない。

然らば何うして今後は佛教を根本的に研究して哲學を基礎として専ら系統的理論上から布衍しなければならぬ、従つて宗教家其人も哲學上の研究が必要であると云ふまでもない、而して之れは偏に新進の

宗教家に俟たなければならぬ、然るに我邦現在の宗教家なるものは最も割の悪い職業である。

故に名利と銜氣に満ちて居る、新進有爲の人は自ら之れに任ずることを好まない、之れ我邦の宗教界が日々に寂莫を感じしめて居る所以である。

當今の青年何れも名利に戀々して宗教の家に生れて宗教を擲うつ者が多い世の中に我が阪口祐廣師は獨り之れが天使となり其使命を全うして宗教界の腐敗を郭清せんとする自覺を以て起つた高僧であるから最も吾人が尊敬すべく又將來を囑目して居る所以である。

阪口祐廣師は明治四十四年岸和田中學校第十回の卒業にて佛教専門學校出身、直ちに岸和田の名刹正覺寺住職に任ぜられ爾來孜孜として師得意の哲學を基礎として近代人の慾求する法教の普及に従事し愛山護法の爲めに努力せられてあれば信徒の歸依甚だ厚く、師は温厚篤實にして而かも快辯の諄々として教理を説く時條理整然として一糸紊れず人をして自ら敬服せしむるものあり。

嗜好とする所、佛書を最とし其他人の好むもの一として嫌惡するなく蓋し博愛教理の馴致するたるや言を俟たざる所なり。

資性温良恭謙の世に類小なき佛子弟にして精心難行自から標示して佛道を布教せんと欲する名僧である。

徳を以て人を服するものは、中心悦んで誠に服するなり

(孟子)

川井犁鐵氏

川井醫院々長
岸和田市堺町

醫は仁術なりとは微の生へたる文句で、近來は醫は錢術なりと云ふ心細いことになつて了つた。

先づ大阪の大病院の先生は有繋都會で立派な學者であると思つてゐれば大間違ひ、技術よりも錢術、脈を取るよりも機嫌を取る、機嫌を取るよりも金を取ると云ふ風である。

富豪權門の患者と見れば、柄にもないお世辭を振り撒き、初めの内一回だけは大變れき目のある藥を用ひるが、お蔭でよほど氣分がよい杯と言つたら、最早喰ひ付いたなと言はぬ計りに、其の後は成るべく病氣を永引く事に努める、眼病なれば蒸溜水、胃

病なれば食塩注射と言ふ風である。

甚しいのは立會診察を請へば主治醫は直に先き廻りして八百長をやると云ふことである。

怒る先生に生命を託して置くのは頗る心細い次第である。そこになると地方の醫師は一般に神聖なもので人格の點から言つたら到底都會の先生と同一の話でない。

殊に現在泉州で内科、小兒科を以て患者の絶對的信認をうけてゐる岸和田市堺町に開業せらる川井醫院々長醫學士川井犁鐵氏の如きは其の人格の崇高なるは泉州刀圭界稀に見る名醫である。

氏は岸和田市の名門川井家に生れ、大阪醫科大學を卒業し、多年母校に於いて實地と而して學理を研究したる新進のお醫者様である。

岸和田市に於いて開業するや、患者に接するに極めて親切職務を執るにも最も忠實、その信用と聲望は倍々地方に喧傳せられ、手腕の凡ならざる泉州有数の名醫である。

敢て貴賤貧富を別たす、利害に快談、道の遠近を問はずして其の招聘に應じ醫の天職と人類救済に貢獻しつゝあるが如き、吾人は岸和田市の爲め大いに意を強ふするに足るべきである。

大思想を以て

心を養へ

英雄を信すれば

英雄となる

(チスレリ)

佐々木仙太郎氏

泉南自治團體の雄鎮として隆々たる聲望を收め陸離たる光彩を放ちつゝあるものは我が貝塚町助役佐々木仙太郎氏である。

蓋し其常に貝塚町民の福祉増進と町の休戚とを究め一事一物熱誠と氏獨特の豪膽を以て臨まざるはなく清廉高潔なる思想を以て起つに由るものである。氏は貝塚町津田名望家佐々木家に生れ、同家は代々米穀商を以て郡内に鳴り氏も又實業に幼少時代より趣味を持ち、而かも頗る先見の明と特有の敏感とに依り曾ては天下の北濱に乗り出し投機界に在りて相當の業績を挙げ日に月に進展し業界の至寶として珍重せられたが貝塚町は附近の各村と大合併に際し

貝塚町助役
貝塚町津田

町民の切實なる希望に依り實業界に絡繰し、遂に助役に就任し以來氏が持前の豪膽と敏捷は益々冴え來り、縦横無盡の快腕を揮ひ温良なる岡本町長の女房役として町政上貢獻の蹟は尠少なからず。

資性霸氣滿々全身にハチ切れそうな元氣を溢れ、人に接するや極めて懇切、能く謙讓の美德を具へ些の倨傲の風なく社會公益の爲めに一身を挺して力めざるなく黄白の爲めには其主義主張を枉げず、故に全町民氏の手腕と力量を讃へて服せざるものなし。

花本淺次郎氏

櫻麥酒株式會社
大阪支店長

世界の商工都市大大阪に控えてゐる、我がビール界の權威櫻ビール株式會社大阪支店は大阪に於いて櫻ビールの代表者である。

従つて其處に采配を振る支店長は常に經營と手腕と人格を兼備した逸材が配置される。現在花本支店長も亦其範に漏れない名支店長の聲が高い、氏の全貌のアウト、ラインを解剖して見るに先づ苦味走つた颯爽たる面貌で支店長としては押出しのよいのも萬點の價値、人間は押出しばかりではモノ言へないが、はゞかりながら花本氏は風貌以上に内容が買はれる人物である。

あの負ず嫌ひの迫力と正義を愛する信條は氏の偉

大な魅力となつて全身に光つてゐる、これが又氏の社交的にもその儘應用される、キザな粉飾的態度がなく何處迄も率直の一本氣で氣に入らない相手に遠慮なくツケ／＼言ひまくる、だから陰險な男は寄りつけない。その變り一度誠實を旨として情を交へたら百年の知己に等しい親しみが感じられる人である。しかも如何なる場合でも公私の區別をハッキリする所が支店長としての氏の眞面目さがうかがはれる。而して氏が支店長就任以來圓熟せるその手腕は益々牙へ來り、着々目覺ましき業績を擧げたる如きその經營統率と萬人に愛される氏特有の天資を雄辯に物語るものであらねばならぬ。

阪口英三氏

阪口運輸店主
岸和田港

秩序ある營業方針、周密なる思慮、加ふるに俊敏なる手腕と機略を以て全泉州業界に雄飛するのは岸和田港、及岸和田驛前に古き歴史を有し堂々たる店舗を有する海陸運輸業丸岸運送店主である。

氏は岸和田市政界の長老、市制實行の功勞者元市會議員阪口治平氏の長男に生れ嚴父治平氏は長らく政界及事業界に没頭せられてゐたので殆ど店務は氏が年少時代から一切を經營を任されてゐたが些の支障もなく愈々益々隆盛に至らしめ今日の盛業を觀るに到つたのである。

氏は社會公共の爲めに全渾の智囊を揮つてゐる、

例の岸和田築港問題の如きも氏が大正五年岸和田海運業組合を組織し其他團體を組織し築港促進の輿論を喚起し自ら其先鋒として東奔西走十年一日の如く岸和田市繁榮の心臓であり、又漁民の生命安全の爲め血の慘むやうな運動を續けられ遂に全市民の輿論となり、一昨年市會に於いて岸和田築港改修の議決なり目下着々として工事進行中である。

氏が明敏なる頭腦と發達せる常識と萬々たる社會奉仕の熱誠を烈々として心中に燃やしつゝある岸和田市に稀らしき名利を外した性格の持主である。

三尾邦三氏

衆議院議員

人類愛——それはなんといふ美しい、そして又な
んといふ願はしい言葉であらう、人間のうち誰が自
ら好んでこの言葉を否定しようとするものがあらう
私達は少なくともこの麗はしい言葉を否定するも
の、あることを信ずることは出来ないにも拘らず、
人類相愛の眞實性を無視しゆく多くの非人類相愛の
存在をマザ／＼と見せつけられてゐる。

私達はそのことに直面したとき深刻な悲しみ、恐
怖、かつ戦慄を感じる。私達は永い間人類相愛の根
本正義觀念を社會人に絶叫し續けて來た。けれども
多くの人々は小我に囚はれ自我巧利心に墮し人類愛

の理想郷に歩み近つかうとしない、却つてその途を
阻み各自が意識的にも無意識的にも妨害してゐる。
その結果しば／＼人類相愛と相容れざる悩みをつゞ
け繰返してゐる、なんといふ淺ましい人間社會相
である。

私達はそうした社會人に深酷な人類相愛の徹底意
識、人間の本然に覺醒して貰はねばならぬ、そうし
て自らの姿、心を玲瓏たる鏡に映し、凝視して欲し
いものである。私達は日夜人類愛の美しい言葉をそ
のまま現實化すべく焦慮してゐるものである。

茲に立法府國政に參與し眞に人類愛の爲めに血を

燃やしつゝある政治家の仁者は和歌山縣選出代議士
三尾邦三氏である。

實に三尾氏は常に國民の福祉増進而かも弱者の爲
めに人類愛を絶叫して全力を傾注し政治家の天職と
使命をハッキリ認識する衆議院議員である。

三尾邦三代議士は和歌山縣選出代議士にして縣下
日高郡三尾村の出身である、政黨は政友會に屬し今
回で第二回の當選である。

氏の主義政策は農村振興と中商工業興隆と而して
社會政策は氏の専攻にして議政壇上に於いてこそ花
々しき賣名的言論を戦はさないが常に政友會内部に
於いて自己の主張を徹底的に強張して止まず、氏の
背景には政友會の長老岡崎邦輔初め久原房之助氏
等は極力氏を支持して居る。

氏は非常に無慾恬淡にして衆議院より受くるとこ
ろの歳費は一厘一毛も私せず、歳費を取るや直ちに
或時は國防基金、或時は選舉區の貧民救濟事業に寄
附し其他年末、中元には孤影悄然たる見る影もなき
貧民に莫大なる金品を寄附して彼等を救ふてゐる。
美事善行は實に枚舉に遑あらず、歳費の差押を受け
る國恥的代議士の多き今日彼等醜輩に比すれば其差
異天壤も嘗ならざるなり。

氏の資性頗る大膽にしてしかも細心、聰明にして
而かも沈毅、穎達にして而かも宏量先見の明、着眼
の鋭、神の如き鑑識を以て單に大阪とのみならず、
我國の美術界に於いて燦然と輝き電撃的の大異彩を
放ちつゝあるものは實業界に於ける三尾邦三氏の片
影である。

事實確かに氏は我美術界の巨頭である、而かも氏の書畫骨董の鑑識に至つては何人も追隨を許さない神祕的の鑑識眼を有し實に恐るべき鋭き眼と心の持主である。

氏の眼と心は全く冴えてゐる、而かも其商賣上の取引に於いては誠心誠意信用第一主義を傾倒してゐる、故に氏の直情徑行の性情は時に他人より誤解を招き反對せんが爲めの腹の黒い商賣人には睨まれ、思はぬ敵を作ることもあるが、氏が如何に反對され敵を作ると雖もニセ物を眞物也と鷲を鳥と言ひくめる度胸の所有者でもなければ、又そんな腹の黒い才子肌の人でもない、何處迄も誠心誠意槍一本で押し通す所謂商業道德を唯一の武器としてゐる。

俗臭紛々私利私慾の爲め神聖な而かも貴重な美術

品を汚してゐる悪黨輩の横行する業界に常に大道無門一茫千里の光を放ちて居るものは實に三尾邦三氏である。

↓V↑

河深ければ水の流るゝ
こと静かなり

(センチピニア)

佐々木信次郎氏

岸和田市岸城町

我國の地主や家主程頭迷なるものはない、小作人や借家人を見ること恰も奴隸の如く殘忍誅求を極め唯己れの懐ろを肥さんことのみを圖つてゐる。斯の恐るべき幸徳秋水事件に關係してゐた、村近雲平の如きは曾て岡山縣農業技手として在職中岡山縣下の悪地主悪家主の横暴に憤慨して遂に無政府主義に投じたと云ふことである。亦最近の五・一五事件の如き大不詳事件も結局大地主の大資本主義に反抗し突發したものである。

豈に恐るべきことでないか、されば之れを避ける方法はと云へば政府の力を藉るのは抑々末の末たる問題である。

先づ第一に大地主、大家主が反省し小作人や借家人が互に相愛して協調的觀念を強くして行くことが最も必要である。然らば現今岸和田市否泉州の大地主に於いて斯る觀念を有して居るものが果して幾人あるであらうか、然り幸にして佐々木家は代々小作人や借家人とは人類相愛の大精神を原則として互に相愛し相扶け共に生き、共に暮すことを唯一としてゐる。末だ佐々木家には小作人や借家人と相争ふことがなく昔も今も何等異なることなき地主と小作人家主と店子との美風は嚴然として貼つてゐるのは獨り佐々木家の誇りのみならず實に亦以て我が國の誇りであると呼ぶと同時に今日の如く階級意識にハツ

キリ自覚し動もすれば資本對勞動者が闘争的兆候の
見る秋に此の佐々木家の美風美德、仁善は活きたる
典型として世の範たるものである。

佐々木家は舊岸和田藩主にて氏の嚴父佐々木政又
氏が泉州に於ける立憲政治の大先覺者にて明治十九
年大阪府會議員に當選し次いで衆議院議員に選ばれ
た。

氏の主義主張政策は産業教育にありて教育方面に
於いては岸和田中學校、泉南高等女學校を創立し、
産業方面に於いては南海鐵道株式會社、岸和田紡績
株式會社を故寺田甚與茂氏等と相謀り之れを創立し
教育、産業の爲め甚大なる功勞あり明治四十年五月
十日病魔の爲め遂に卒せらる、誠に惜みても餘りあ
り。

當主信次郎氏は政又氏の二男、明治三十八年岸和

田中學校第四回卒業生にて直ちに實業界に身を投じ
嚴父の後を襲ひ各方面の事業に關係し、現に泉州金
融界の第一の信用を有する五十一銀行の常任監査役
として財界に重きを爲してゐる。

資性温良實厚にして同情に厚く、毫も名利の念な
く追かに態度悠揚として氣格崇高些の飾氣なく驕氣
なく眞に實際を尊ぶ堅實なる紳士にして浮華に流れ
る當世に於いて珍らしい人物である。

金森又一郎氏

大阪電氣軌道株式會社々長
參宮急行電鐵株式會社々長

凡そ交通運輸事業は國家交通機關上重大なる關係
を有するものにして國の文化は之れに因つて表明せ
らるものである。されば其事業をして益々敏捷を期
せんには須らく民間事業家を得ると否とに依り多大
の影響を及ぼすものなり、金森又一郎氏の如きは我
國交通文化事業に盡瘁したる多大の功勞者である。

金森又一郎氏は大阪市の名望家金森又兵衛氏の長
男、明治八年生れ、本年六十二歳の事業家としては
圓熟せる才能と多年の經驗を思ふ存分に使ふ絶好の
時代である。

大軌、參宮兩社は勿論關西電鐵界の巨星であるが
夫れよりも兩社が關西事業界に斷然光々として輝く

のが兩社の資本或は營業狀態の良好よりも寧ろ金森
又一郎氏を社長に有することにあり、然り金森社長
は兩社に採りては恰も海軍に超下級の戰艦を有する
強味である。

金森氏は曾ては大阪府に職を奉じ一官吏であつた
が、其手腕力量、人格識見を故七里清助氏等に認め
られ、明治四十四年官を去つて實業界に入り時の財
界の巨頭岩下清周、七里清助、速水太郎氏等が大阪
と奈良を繋ぐ大阪軌道株式會社を創立するや岩下氏
の片腕となり、得意の敏腕を揮ひたが好事魔多しの
世の諺の通り大軌は生駒トンネルの爲め其資本の全
部を喰ひ潰し流石の豪腹を以て鳴つた岩下氏も此所

に端を發して遂に失脚し岩下氏の失脚が大軌に類を及ぼし大軌更生の見込なしと財界に一暗影を投げ將に大軌は浮鎮の斷崖絶壁を歩んだ。世間は大軌は絶望なりと非難攻撃的となつたとき性來負けず嫌ひの氏が諾し俺は起つと敢然起つて生命を抛ちて大軌の更生の爲め寢食を忘れて總ゆる犠牲を拂ひ苦心慘賸の結果、先輩岩下清周氏の當初の志に達せしめ、今や四千五百餘萬圓の大資本會社に造り上げ業績益々良好、株價又業界第一位を占め社運旭日昇天の勢である。

金森氏は大軌社長及び參宮急行社長を兼任し縦横無盡の快手腕を揮ひ、大軌は完全に完成したるも新設の參宮急行は開業早々のことゝて其業績は他社の如く萬點とは云はれないが氏の大會社經營の手腕と參宮急行が持つ唯一無二の誇りである日本の神都、

伊勢神宮を終點とすることに依つて其事業の將來性のあることは何人とも雖も否定出来ない事業である實に參宮急行の寶庫は神都伊勢にあり、更に又參宮急行の沿線到る處には紅葉の大豪華版、香落溪を初め關西の名瀑の名所伊賀四十八瀑を初めとし各地到る所には名所舊蹟は散在し電鐵會社の生命である。遊覽、探勝、信仰の各必要條件は完全に兼ね備へられてゐるから同社の將來實に有望であることは何人とも認むるところである。

中山隆吉氏

南海鐵道株式會社

人は單に名望のみによつて勢力を支配し得べきではない、必ず實力の名望を支持するに足るものがないければならぬ。而して名望は圓滿なる爲めに生じ、實力は銳利なるが爲めに發揮せられるを以て原則として居るが故に實力は往々敵を招き自然名望を損ずることがある。

若しも實力をして名望を損せざる程度に於いて活動をしたならば其勢力は測るべからざるものあらんと併し此の兩者調和せしむることは却々容易の業でない。されば今我が國電鐵界に於いて實力、名望共に圓滿なる調和を以て自他共に許してゐるのが我が中山隆吉氏である。

氏は曾て我鐵道界に手腕とその才能俊秀と、人格の清明高朗の點に於いて稀れに見る鐵道局長としての信望を蒐め我が交通運輸界の花形と謳はれてゐた。中山隆吉氏は石川縣人法學士なり、一昨年南海鐵道株式會社專務取締役任されたので一般株主は勿論多くの社員、従業員は信望を極めて深厚なるものがあるを見る。

これも氏の人格識見の一端を物語る處のものでなくしてはならぬ、その民衆的態度、その温容な風貌亦なんとなく人を魅する即ち徳を以て廉潔な性情を自然に發揮するやうに思はれる、敢て多辯を弄せず、一言一句悉く皆會社本位實に花も實もある專務

さんと彼等は神の如く敬し慈母の如く慕ふて居る。氏は對内的には徳望を以て社内を統御の任を全ふし、對外的には清明高朗なる人格と識見と力量を以て人を克服せしむ。兎に角温情主義にして敵も味方も求めない、只幸にして自己の徳望と誠意が對者に迎合するならばそれで可なりといふ、内剛外柔爽快俠氣な性格は現代實業家中稀れに見る床しい點である。蓋しその生立ちその閱歴、その人格、手腕、力量面かも豊かな人間味を多分に持す中山氏の如き専務取締役を有する事は多事多望な東洋の電鐵王大南海の爲め洵に欣ばしいことである。

由來南海鐵道は東洋一の電鐵王と謳はれ、表面は實に波靜かで平和のやうに見受けられるが一層深く廣く南海の裏面を覗けば千波萬波幾多の事柄が潜在し所謂會社代表すべき社内重役に於いて内外大株主

の不平が漲り機會ある毎に其先鋒が現はれてゐたが中山氏が専務取締役に就任後こうした方面に鋭意圓滿解決に總ゆる方法に於いて不平一掃に努め誠心誠意一意専心大南海建設の爲め日夜寢食を忘れて身命を賭して奮闘された結果各方面に於いても中山氏の熱誠、會社の爲め盡す懸命の努力は遂に大株主初め一般株主及び沿線住民の認識するところとなり今や全く不平不満は影を没し、南海に漂うてゐた妖雲は何れかへ去りて社の内外は常に一致協力和氣霽然とし、薰風颯々としてゐる、之れ全く氏の熱誠と人格の賜ものである。

資性温良なる貴公子然として氣品高く神心凝然玉の如し、能く人言を愛用し人言を喜び大局を見て斷を取る副主將の器である。

川口松太郎氏

實業家
岸和田市本町

凡そ人として家運の長久を圖り、子孫の繁を思はざるも稀なり。而かも世人の多くは單に財産を作ることに汲々として、最も肝要なる相續者の養成を閑却しつゝ、あるもの少なし、事理顛倒思はざるも甚だしいと謂ふべし。されば泉州に商業人多しと雖も、能く父祖の遺業と遺志を辱しめざるもの果して幾人がある。蓋し我が川口松太郎氏の如きは好相續人として吹稱するに足らん歟。

川口家は岸和田市本町に代々荒物商を營み、先代松太郎氏は元市會議員にして市政界の功勞者である。嚴父亡き後は、氏は直ちに家督を承け家道の發展に孜孜として怠りなく、今や頓に勃興して泉州商業界に君臨して、大都會の一流同業者にも毫も遜色なきのみならず、反て凌駕せんとするの觀を呈し、隆々

としてその名聲は輝いてゐる。氏は人と爲りも温順にして、風采、態度の悠揚たる實に一流實業家の態度である。現代の青年の多くは父祖の遺産を笠に着し、飽迄暖衣、只管虚名に憧がる輩と異り、毫も聞達を求めず、安逸を食らず、謙抑以て世に處せんとするものゝ如し。

従つて世人の信望は氏の一身に繋がり、起倒盛衰極まりなき商業界に氏が毅然として、泉州商業界の一角に聳ゆるのも、又偉大なりと云ふべく、然かも年齢少壯、前途更に偉大なる發展あるを疑はず。更に其人物が全市民に買はれ、幾度か市會議員候補に推されたるも謙讓の美德を有する氏が固辭して受けず、現代浮丁子の青年實業家と比較すれば天地の差がある、世の模範青年紳士である。

堀井清吉氏

電流制限器製作所主
岸和田市上野町

近時成功談なるものは大に行はれ政治家となり
金持となりたる人の経歴等が新聞雑誌に載せるゝこ
と多きが故に、青年の心は動もすれば浮足となり、
何か世間に名の聞ゆる程のものとならねば自ら意氣
地なきやうに感じてゐるものもある。

而したとへ身は草深い田舎に住むと雖もその心掛
によりては大臣富豪よりも寧ろ深く、強く國民の進
歩發展福利増進に貢献し得べきことを覺らぬもの多
ければ、今此處にその對症の藥として近時稀らしい
隱徳世界的大發明家堀井清吉氏の如きは亦逸すべか
らざる人物である。

堀井清吉氏は岸和田市上野町に在住し、日本有數
の隠れたる大發明家である。

氏は所謂田舎金持の通有性たる威張りたがること
は斷じて嫌ひで實名の爲めに會社の社長や重役、名
譽職に成りたがらない、況んや政治的方面に野心な
く、若し堀井氏の今日の人格と勢力を以てすれば名
譽職の五ツや六ツは茶飯事である。

けれども氏にはそんな野心が毛頭持合さない。飽
迄文明の先驅電氣器具の一つたる電流制限器の改良
進歩に寢食をも忘れ研究に終始一貫してゐる。

現在我國の發明に依る制限器は特許十數種を有し

てゐる。けれども堀井電流制限器は他の類例なき最
新式にて一頭角を現はし、完全優秀一種の特長を有
し、他品の追隨を許さない世界的大發明たりと天下
に覇を鳴へてゐる。

然して製作所を春木町に設置し、自ら職工と伍し
第一線に立ち、總ゆる犠牲を拂ひ實に奮闘努力他
の發明家をして愕然たらしめ、研究に熱心なる氏は
血のにじむやうな實驗を幾千回繰返し、然して新
案特許を獲得して遂に名實共に世界に誇るに足る電
流制限器を完成するに至つたのである。

斯くの如く堀井式電流制限器が世界的に卓越せる
優秀品として噴々たる信用を博するに至り各方面よ
りの注文殺到したので大量生産設備に忙殺されてゐ
る。やがて世界的に一大飛躍の時期も遠くあるまい

實に發明躍進日本を堂々と高唱し我が國の誇りとす
べきである。

然して心事公明天真爛漫にして人生行路あらゆる
悲風慘雨を経て來たりたる所謂苦勞人にして、人に
接しても常に和氣霽然として親善を旨とし頗る同情
心に富む、而して氏は權門に媚びず、勢家に諛はず
獨立自力を以て能く幾多の固厄、窮苦に耐へ、研究
心の誠徹は實に青年子弟の活きたる教訓である。

斯かる俊傑世界的發明家を得たことは眞に日本の
精華であり、我泉州の誇りとして洵に後進子弟の龜
鑑として好典型人格の士なりと言ふべしである。

杉本徳松氏

織 布 業
岸和田市外八阪

泉州織布界に於いて最近に尤も目新らしい活動してゐるのは我が杉本徳松氏である。氏は大阪府泉南郡南掃守村八阪に生れ、氏は元我が紡績界の權威岸和田紡績株式會社工務部主腦者として靈腕を揮ひ、故社長寺田甚與茂氏に非常に知遇を受け二十數年精勵格勤多數社員の範たりしが後辭して現在綿布製織業に従事しつゝあり。

氏は不言實行の士にして其顧客に對して敢て寸言を弄して徒らに自己の製品を購買せしむる事に勉めざるも其商業取引上に於いて道德的觀念の完備したるを見る。例へば一反の白木綿製織或は實買契約爲すに當つても粗製濫造若しくは受渡の時日に至りて

は決して前言と相違する事はなく、而かも顧客に對しては頗る叮嚀懇切にして、其何人に拘らず、毫も不通の態度等はない。如斯は他の多くの同業者にて見る所謂對手本意な現金主義な輕薄なところは少しもないのは即ち杉本徳松氏の其特色であらう。而して其製品に至りては完全無缺にて巔然奇抜な製織と其優良品に於いては他の何人たりとも追隨の出來ない、實に業界の一大權威である。

確實と信用本意に其客に對して、其製品に對してあらゆる點に留意し行届かざるなきは、同氏を知る人の等しく認むる所であつて社頭常に顧客集集するは故なしとせず。

榊井敬介氏

高野山商工會長

高野山商工會は町の産業の心臟部である、其の活動の如何は直ちに町産業界に大なる影響を與へるものである。商工會の會長なるものは製産工業家を戒め、一面商賣人には不正を戒め得べき徳望を有し、他面に於いては對外的販路の擴張に努むるの才腕を要す、此の三大條件を具備し、而かも人格識見、力量手腕を有するものでなければ當然會長たるの資格なきものにして、此の二大條件を具備するものを求むるのは仲々困難な問題である。

此の點に於いて我が榊井敬介氏の如きは實にその會長たる資格を何れの方面より觀察するも會長として十二分の資格を具備する眞に理想的の會長である會長の榊井敬介氏としては町の事情に精通し、細

大の別なく處理し得る手腕と頭腦とを有し、冷靜にして而かも情愷心に富み町産業界の棟梁として周到なる注意と懇切なる指導とを以て會員を愛撫するなど、眞に新興の意氣に燃ゆる高野山商工會長として適材適所の觀がある。

氏は亦外柔内剛、その人に接するや極めて直撃に而かも何等の圭角を有せざるも、其の主張は容易に枉げず、頗る雄辯といふでもないが惇々として倦まず聽者を満足せしむるの辯を持つてゐる。

斯くして常に町の商工業發展の爲めに會長の責務を全うし、未だ會つてその使命を辱しめた事が絶對にない。此の手腕、此の意氣こそ全會員は勿論全町民の負託する處である。

安井省三氏

岸和田東光尋常高等小學校長

現代日本に於いて最も缺乏せるものは國家的觀念である、思想國難と云ひ、經濟國難と云ふも畢竟愛國心の弛廢に起因する外ならぬ。國民精神の中心、戮心協力の氣魄と皇國の本質に對する確たる自覺とがあつたならば、克く國家の危殆を救つて忠愛なる皇國民の任務を果すことが出来る。我等に取つて國家は我等の宗教である、國民が一切の分類を脱却して統一せられるものは唯だ萬世一系の皇室を中心とする日本の國家でなければならぬ。即ち國家の本質に目醒めて國民獨特の個性に甦り國民自體の信念と理想とに生きることに歸すると、斯くの如き雄々しき信念のもとに日夜愛國の志を失はずして、おのが天職とする國民教育に勵みつゝある教育界の先覺

者、安井省三氏は其の根本に於いて既に郡峰教育家の域を超絶するものがある。

氏は其正義を愛し邪曲を憎み常に侃諤の議論を爲して泉州教育界の一異彩たる事に於いて何人にも譲らざるものは氏であらう。氏の議論は言々火を吐き句々風を生ずるの概がある。而かも一言一句即ち口を開けば忠君愛國教育第一主義を説き其熱誠其愛國心には如何に氏に反對の士と雖も一度氏の所説を聞かば肅然として襟を正し矚然として悟る所あらむ、而かも兒童を愛護し校風の向上隆盛の精神は教育家多數中に斷然光つてゐる。精力充滿氣概溢近き將來に於いて必ず大いに爲すある典型的教育家なる事は萬人の齊しく信じて疑はざるところである。

森井長次郎氏

花鶴釀造元
泉州郡西鳥取村

天下の名酒花鶴は森井長次郎氏の吟醸である。氏の名聲を天下に走すると共にその吟醸は更に一段の輝きを以て世に傳はりぬ。攝津の灘、五郷と泉州の地とは一線灣形を示せる海岸線の隣邑たるに過ぎずと雖も中間に大阪市を入れて左右に袖を分ちたる兩地は地形上に於いても自然の異別を止め、交通の便に於いても一は省線、阪急、阪神に沿ひ、他は南海阪和線を新たに踏まざる可らず。而して酒の特色に於いても然り、灘に淡白を喜び、泉州は濃醗醇味を尙ぶ正宗、白鶴、富久娘の名は聞くからにスガクしきを職想せしめ、花鶴は温雅幽艶、花ならば牡丹を意味し、花鶴の名はなんとなく雄大男性的なるを意味すべく思はしむ。櫻花の散り易きは其の醒むる

に早きを意味し、牡丹の天艶清に濃やかなるは雀百までの感を起さしむる。而して一擲千金の千日前、道頓堀不夜城に流連する酔客は醒むるに能なりて切揚げの疾きを良とす。斯くして晚酌二合の酒は家庭を温めて永く酔ふに徳あり。

森井氏は泉州西鳥取の豪農森井家に生る。森井家は泉州に於ても大地主として有名なる家格なり。氏は若くより實業に志し、家業の醸造業の外に森井綿布株式會を起し、地方産業興隆の爲め甚大なる功績を貽す。更に泉州南部金融機關として鳥取銀行を創立し選ばれて頭取となり金融界の爲めに偉大な足跡を印しする等、其の他種々の事業に關係し、郡内一方の重鎮として令名藉甚たり。

三宅政右衛門氏

岸和田方面委員長
岸和田市本町

人は退いて身を修め、家を齊へ、一點の疵瑕なきとは、實に國の良民たるに愧ぢぬ、けれども猶更に進んで公利を圖り世務を開くにあらざる以上は、未だ以て國家に對する義務を盡せりと云ふことは出来ぬ。家にあつて獨り慎むは固より修身の始めであるが、併し一身の修得は廣く公衆に關する利益の大なるには及ばず、又進んで公衆の爲めに有益なる事業を爲すは、獨り退きて智識を研くより遙かに切要なるものにて、如何に鋭利なる思慮も未だ敏捷なる行爲の價値多きには及ばない、實に人生に於いて最も高尚なる希望は事業を經營して社會進歩の一分子を

加ふるにある。

然るに我國の封建思想は徒らに智足を戒め、僅かに資産を有し、漸く生活を支ふるに至れば最早、無爲にして化する弊風がある。

蓋し地方の門閥と稱するもの今尙此の弊風を脱せず、資産もあり、信用もあり、相當の才識を有するものにして、依然として高等遊民として得々たるものが甚だ多い。

之れ實に國運の進展を遅緩ならしむる一大原因と言はねばならぬ、此の時に當り地方稀有の門閥家を以て喧稱せられつゝある三宅家の當主政右衛門氏が

夙に時勢の趣向を看取し、岸和田市の産業發展の爲めにその資財たる金融界に貢獻し一意専心努力せられる如きは又以て意を強ふるに足るべきである。

三宅政右衛門氏は岸和田市本町の人、三宅家は代々煙草小賣の總元締にして岸和田の三宅と云へば關西に於いても押しも押されぬ家柄と信用を得てゐたがその後官營なるに至りて廢業し泉州に於ける古き歴史を有して名聲躍如たり、現に金剛無盡株式會社の最高首脳として泉州金融界に滿身の力をいたして居る。

氏は産業界の振興のみに腐心し、政治的方面には何等の野心なく自ら陣頭に起つて中原の鹿を争ふやうなことをせず、常に岸和田市發展の爲めに大所高所より彼等政治家を見てゐる。

唯だ氏が公職としては岸和田市方面委員長であるが、志操高邁、識見卓抜また甚だ仁侠に富み、魂を擧げて救靈の事業に一意専心没頭し其叫びや熱誠あふるゝものあり、其方面委員長として實に徹底を極めてゐる。

即ち人間は人間の犠牲であつて互に忍び、共に助けてこそ眞に共存共榮の平和の世界が實現するのである。

社會事業の尊さは實に茲に、氏は眞に犠牲的精神の權化であつて眞實神の指する人間の道を盡して餘す所がない。

加藤鎮之助氏

大阪府南河内郡楠妣庵

吾が大日本帝國は云ふまでもなく萬世一系の天皇を戴く立憲君主國である。而かもその天皇は畏れ多くも我々國民の御宗家におはしますのである、現代の世界に於いては斯くの如き君民合一、一君萬民、君臣一如の國體を有する國は他にない。皇帝を失つた國は臣民中から新たに皇帝を作ることには國民が快しとしないから、共和國であるの外はない。イギリスと雖ども二百餘年前ハンノウ家ジョージ一世が王位に即かれたのである。

ベルギーは百年前ドイツ皇族レオボルトを迎へ入れて國王に推戴したのが初めてである。連綿として二

千五百九十五年、一系の天皇を戴く吾が日本の權威と氣品とは實に世界の美望とする所である。

大日本天皇は階級の光ではない、全民族の光だ、いな更に進んで全世界の光でおはします。全世界をして大日本、天皇の御光徳を讃仰せしめなければならぬ。

而かも吾皇室は我々の御宗家であらせられ、歴代の天皇は一家に一家長を有する日本全家族の大家長であらせられる。小家長に對する孝、大家長に對する忠、それが何の矛盾もなく両立し、且つ合一することはありがたき我々の幸福でなくて何であらう。

忠孝一本の心を以つて家族に對し、人に對し、社會に接し、而して國家に向つて行く、これこそ實に力強い處世の第一要件と謂はねばならぬ。

然るに近時西洋の學說の熱に浮き此の光輝ある我が國體を云々する國賊、亂臣、不義、不忠の醜業が横行することは憎みても餘りあることである。

此の醜き世相を傍觀するに忍ばずと奮然起つて大楠公主義普及徹底に依つて國家安全なりと心中確固たる信念を以て加藤氏は大正四年私財を抛ちて楠公夫人遺蹟保存會を起し、且つ楠妣庵の再興觀音堂の再建、記念碑を建設し、而して氏の美事快學は著々と進行し殆ど完成し、夫人の遺蹟は全く完全に顯はれ夫人の靈を弔ふと共に混濁せる現代女性思想界に活きたる教訓の大殿堂である。

楠妣庵は楠公夫人の隱栖終焉の地である。夫人は

名を久子と呼び南江備前守正忠の妹なり、嘉元二年字矢佐利に生れ元亨三年二十歳にして正成公に嫁し

赤阪村水分の邸に住す、琴瑟相和し、正中二年その子正行を挙げしより嘉曆二年正時、元徳元年正儀、

元弘元年正秀、同三年正平、建武二年朝成の六男を挙げ、元弘元年正成勤王討賊の誓詞を奏し、赤阪城

を築くに及び、觀心寺の中院に移り専ら正行以下の教養に心を盡せしが、延元元年五月二十五日正成は

淡川に戦没し、其の兄正忠も之れに殉ず、正平三年正月五日其の年正行は二十四歳、正時は二十二歳を

以て四條畷の戦に陣没し、一族郎黨多く之れに殉死す。正儀方に二十歳其の後を繼ぎ千早城を修めて之

れに據り正秀十八歳、正平十六歳、朝成十四歳なり

しがみな出で、軍に従へり。

當時夫人は四十五歳なりしが、正行を失ひしより人生の常なきを感じ此の東條の山上數弓の地をトシ観音堂を作り、草庵を建て、之れに隠棲し、敗鏡尼と號し、緇衣を披き人事を謝絶し其の祖先と良人及び其の子の菩提を弔ひ正平十九年七月十七日、六十一歳を以て庵裡に寂し、観音堂南屋の下に葬り塚を築きて五輪塔一基を建て、楠妣庵玉山蒲圓大禪尼と謚せりと織田完之著楠公夫人傳に記せり。

此の由緒いとも正しき靈地は其後取毀れ、見る影もなく荒れ果て世人の弔ふものなかつた。之れを加藤氏は深く慨念して大楠公普及徹底の爲めに美事快舉、敢て完成したのである。

一生は旅の山路を思ふ可し
平地少なく峠たくさん

(道歌)

射場 正謙 氏

報徳相互住宅株式會社
常務取締役
和歌山縣田邊町

人は強ち地位の高きと名譽の大なるを以て誇りとすることも又偉らしといふことも出来ぬ、唯夫れ自己の踏むべき天職を完ふすると、否とに依つて人物の貫目は左右せらるのである。氏は和歌山縣田邊町の舊家射場家に生る。氏は南紀切つての人格者であり、現に報徳相互住宅株式會社常務取締役、舊日高川水力、熊野自動車株式會社等の支配人の重要地位にある。吾人は常に人に接する毎に直覺的に來る印象としては對話者の精神作用が如何に働きつゝある哉の點である。會談久しきに亘つて倦むことを知らぬ人は必ず忍耐性と柔能く剛を制すと云ふ氣魄がある。射場氏は徹底徹底主義一貫せる志操の人である。心意澗然たる士は鬼に角繼續的忍耐性に缺ける處あ

るは人として先天的特性と稱する人もあるが、氏の如き盛心膽懷胸中何物をも秘めることなきが如き性來淡白快調の人にして其の驚くべき忍耐性を持つに至つては世上多く見ることを得ざるの紳士であつて、事に當つて必ず成功すべき素質を具備せられる偉人と云はねばならぬ。氏は亦南紀事業界の功勞者にして、今や我が國の泉都の榮冠を戴く白濱湯崎の開拓として白濱温泉土地株式會社社長小竹氏の片腕となつて惡戰苦闘、能く小竹氏を助け、以て今日の盛大に至らしめたる湯崎白濱開發の功勞者である。亦南紀方面の交通運輸上多大の犠牲を拂つた實に南紀交通界から逸すべからざる恩人である。現在に於ても他會社にも大抵關係を有し敏腕を揮ふて居る。

小澤源五郎氏

岸和田市會議員
岸和田市中町

能く泳ぐ者は能く溺る、千百の例への通り冗言冗辭を並べて以て得たる者は、未だ言の眞趣を解せない者である、苟しくも言を發する者は好く考へ、好く慮り、併して後に斷乎たる所信を述べるこそ眞に言の價値を解せる者である。

我が小澤源五郎氏の如きは洵に此の意味に於いて言に忠實なる人と謂ふべし。氏は言を發せんとするや、深慮熟慮點々たる久しきも而かも心中確固たる信念の樹立するや、恰も眠れる獅子の醒めたる如く快辯流れん計りに迷り、傍人の驚嘆を禁ぜざらしむるものがある。

而して其の議論明正整然として敬服せしめる。平

生は平々凡々のやうに見受けるが一旦市に關するや奮然起ちて、全力を傾倒して止まざるは市民をして驚異讚嘆の聲を發して止まざるものがある。

氏は本年の一月第四回市會議員改選に當り同町内より前市會議員市政界の古豪岸上市太郎氏をケシトバシ悠々として當選したることが如何に全市民に絶大なる信認を得てゐる事を雄辯に物語る事が出来る、氏は若實穩健誠實を以て旨とし、形式に走らず議論に抱泥せず、情實の淵に陥らず、炯眼より市政の事情に精通し、常に一意専心奮勵努力を續けてゐる。

東條龍寶女史

天下の靈山犬鳴山主

名利や權勢に超越し救世濟度に精進する生活ほど清くも尊き生涯はないであらう、凡そ宗教家に取つて唯一の資本とするものはその品性と體験とである、謂はゆる個人的宗教が何よりの力であり、また根據である、されば何を云ひ、何を爲すかより先に自己そのものが何であるかに留意して、「我にあるものを汝に與へる」と云ふ態度でその事業運動に従事することを必要條件とする、それにつけて最も大切なのはそれ自からが愛の人であり、愛の生活を營んで愛の奉仕を行ふことではなくてはならぬ。

何となれば御佛は愛であり、また人類最大のものは愛に外ならぬからである。

それ等の意を體して最も克く努め、最も克く世に盡しつゝある人に東條龍寶女史がある。

女史は故東條隆哲師の未亡人である。故人は近代の大徳にて古義眞言宗切つての碩學の士であつた、隆哲師の亡くなられたのは今から十年前である。多くの遺児を擁して悲嘆の涙に暮る内にも奮然躍起しよく夫君の遺業を繼承して愛山護法大成するに至らしめた健氣さは到底凡庸の器の企て及ぶ處ではないのである。

女史の生命はなんと云ふても人類愛である、人生の行路には一起一伏その経路には幾多の障害があるその障害に躓いて遂に顛る、行暮れて寄る蔭もなき

河原の石を枕する孤影悄然として煩悶苦惱如何にして吾れが救はれんかミ心を絲の如くに掻き弄して天下の靈山犬鳴山に女史を訪ねて救ひ求むる女性が數知れず、それら清々の女性に對して慈孝の佛の如き女史を滴る明眸に玉の露を宿して御佛の有難さと人間性の尊嚴を諄々として説き聽かしてゐる、洵に女丈夫の名に背かないものがある。

犬鳴山七寶瀧寺略縁起

夫れ當山は人皇三十七代齊明天皇七年役行者神變大護摩を執行し國家安全五穀成就を祈らる根本靈場なり。本尊俱梨伽羅大龍土は開山彼行者の御自作にして三重の御厨子に安置し奉り此秘佛は譬へ千金を積む共拜禮を許さず靈驗の顯たなるは衆庶の克く識る所なり、又當山には歴史に著名なる七瀑あり、之

れを兩果の瀧、塔の瀧、辨財の瀧、古津喜の瀧、布引の瀧、千手の瀧、行者の瀧と云ふ。此の瀧の水を本尊に供養し戴く時は如何なる業病難疾と言へ共治癒せずと云ふ事なし又大早の雲貌を望むに瀑の靈水は實に金玉の如し、故に淳和帝より七寶瀧寺と勅號を賜りたり、又犬鳴山とは宇多天皇寛平二年三月十五日當山名所の隨一なる蛇腹に潜む大蛇出で獵師に向ふ獵犬鳴いて此を遮り、大蛇に噛み附共に斃る。而るに蛇體忽ち見へざるを以て獵師不可思議の感而起し仰けば燈明が巖に本尊俱梨伽羅大龍土御出現ましくて百光遍照の光り輝き給ふを拜し奉り然れば則ち巖の大蛇は本尊俱梨伽羅大龍土の御化現にして我が利生を誡め給ふを曉り大いに信を起し、義犬の死體を葬りたる事叢間に達し犬鳴山の勅號賜りたり崇光天皇正平年間土丸の城主判官正高當山の中興志

一上人を歸依し塔頭六ヶ寺及鎮守辨財天の社を建立し又參詣道路一町毎に標石を建立せらる、後圓融天皇永和年間當山の願證法師判官の命により、堂宇を再營し更に塔頭十四ヶ寺を建立し法華妙典一萬部を讀誦し天下泰平國家安全を祈らる。正親町天皇天正年間兵火に罹り本堂一字の外諸堂塔頭悉く燒失し、近郷に有る數百町歩の寺領は殘らず織田信長に沒收せらる、豊臣に至りて瀧本坊を再建し寺領三十石を寄附せられ徳川時代に移り岸和田の城主岡部美濃守祈願所とし、保護淺からず、明治維新に繼續せし爾來は無檀無縁と云へ和泉國第一の名所古刹にして境内四十九町余歩の中に四十八ヶ所の古刹を存せり、其中元山上燈明ヶ嶽、經塚、権現蛇腹等は最も信者の崇敬する所なり、満山は杉、檜、松、櫻、藤、楓等の雑花雜木を以て天然錦色を成し千古の風致を有

し高雅優勝近國に比類なし、暑夏静養又は參籠する時は山水の景色と新鮮の空氣と本尊の威徳とを以て如何なる難病と云へ共治癒せずと云ふことなし、舊正月十五日、三月二十八日、七月十五日に大會式にして參詣人の雜踏を極め毎月十五日、二十八日は常例會式にして參詣頗る多し。

鉢植となりて窮瘠するよりも

野に咲く梅や樂な世わたり

田中米太郎氏

泉タオル株式会社々長
泉南郡熊取村

自己主義を以て世に處せんとする時代は既に過去のことである。

今日の實業家は須らく世界的なると同時に自己主義を改めなければならぬ、然るに余輩が今日まで見聞したる所に依らば、泉南織物界の人々は餘りに自己主義ならざるなきか、されば自己の利益を計らるが爲めには殆ど何物をも顧みざるの暇なきが如く、眼中國家なく、社會なく隨つて他人の榮達を見れば甚だしく之れを妬むと共に自利の爲めには他人の迷惑をも構はず、國家公益をも尙犠牲にして顧みず、總て利害問題にあらざれば、人と結合の出來ないと云

ふ傾きがある。

併し一個の素町人として社會の階級より遠けられたる野蠻時代ならいざ知らず、今日の文明的實業家として社會に最も勢力ある紳士として待遇せられ且重用せざるべからざるに拘はらず、自ら素町人根性に甘んじ、舊思想を脱し能はざるは余輩が泉州人一部の人々の爲めには痛嘆に堪へざる所である。

此の時に當りて泉南織物界の人格者を物色すれば先づ我が田中米太郎氏に屈しなければならぬ。

田中氏は泉南郡にその名聲赫々として輝く泉タオル株式會社の社長である。

泉タオル株式會社は織物界の代表にして、基礎の強固と經營振りも總てが合理的である點と社長も従業員も差別のないといふ温情の溢るばかりの工場は泉州に於いて泉タオル株式會社あるのみと言ふても敢て過言でもあるまい。

地方の信用は勿論であるが各地市場に於いても信用は殊の外厚く、泉タオル株式會社なら大丈夫だと確い會社で押しも押されぬ一流會社である。

同社々長田中米太郎氏は資性濃厚篤實にして風采態度の應揚なる、然かも自然に具はる品性、品格を有し一度氏の温容に接せんか、胎蕩として春風に吹かるゝ想ひあり。

亦氏は決して野心がない、氏にして野心があり、名譽慾に汲々たるものあればどんなことでも成し遂

げられないことはない。けれども氏には夫れが毫もない、飽迄隠れたる徳望家として終始してゐる、輕薄なる當世に多く見るべからざるの實に奥床しい好紳士である。

となりよりわが袖垣につたひ來て

えみほころびぬ朝顔のはな

(長 廣)

大谷友之進氏

高島屋支配人

泉州には人物が乏しい、吾人物が澤山あるが吾人は現代の泉州人に大不平を有するものである。

其の理由は泉州人の型は小さい、萬里の波上に鯨の浮ぶ如き態度あるものはなし、何れも藝妓買と空威張と鍍金細工の俗臭紛々不謹慎極まるものが多い此の秋吾泉州出身にて本邦デパート界に慧星のソレの如く實に電撃的の一異彩を放ちつゝある、高島屋の支配人大谷友之進氏は泉南郡雄信達村馬場の産れである。

吾人は斯る俊傑を得た事は眞に泉州の精華であり世の鑑であり、又我等泉州人の大なる誇りである商都大阪一のデパートといはる高島屋の營業の樞軸を握るものは以て天下の流行を沙汰し以て國家の

運命を動かすのである。蓋し人間生存の主要條件たる衣食住の一角たる衣の領分は之れを富の上、流行の上、慾望の上、何れよりいふてもその時代の力の多くを支配するは實に容易ならず。況んや其のこれに加ふるに住居の事を以てするや、而して高島屋は衣の外、食住のことまでも支配するものなり。

大谷友之進氏は高島屋支配人である、これほど華やかなる地位にある人、元より人才なる可し。

去れども人才にも其地位にある人、幾多の系統あり幾多の色別あるものなれば、吾人が問はんと欲する所ものは其如何なる種類の人才なるか、高島屋の營業の仕方といふのは米國風といふ可きものゝ如し其デパートメントストアなるものは米國に其源を

發し諸國に行はる、これ世界的に云へば世界を縮寫し、之れを國家的に云へば國家を縮寫し、之れを都市的に云へば都市を縮寫す。

高島屋といふ一つの建築物の中に入れば各自が需むる一物を中心として一切の要用具一時に集めらる實に便利重寶である。故に人は時間を節約し流行を知り、嗜好を満足し、全館は華客を以て溢る。動物の性明を索め、蟬を慕、繁華に酔ふ、人も亦動物である。其輝ける場所に向ひて市を成すは天性である高島屋の方針は此に取りあるか如何は知らざれども盛んなる經營振りは自然人の性と合してゐる。

然れども天下流行の大問屋たるものは流行の全體を支配するの利潤の大なるものと共に深く反省して人の性を知ると共に人の生をも知ることを要す利を射ることのみを知りて害の起るを知らざるとき

は性を制するも生を制せざるに至る、こゝに於いて枝葉を剪ることを知りて、本を養ふを知らざるの愚に終のみ。吾人は大谷氏の人物論に入るに方りて如此く先づ高島屋たるものゝ見識を問ふ。

高島屋は日本の流行界を沙汰するものなる以上、高島屋は自ら日本の生活の標準點を調査して其流行の限度を知り、又日本國民性の何たるをも知りて日本人といふも、分限に應じて其流行を限ることも知らざる可からず、若し然らざるときは往々にして一國の風教を害ふに至るのである。

大谷氏の人才として深淺が何の邊にあるかは如此き堂々たる立場よりして試験せまほしく思はるゝも氏は又氏として天下の問屋を指揮するの抱負と識見を有し吾人の加言を俟たざるものなる可し。

高島屋飯田社長は穎敏なる人才である、其人才を

集めて其英を抜き秀を鐘めて以て美事に其經營を邁め來りたるは世の人の知る所である。而して大谷氏は飯田社長が其代表者として最も深く信頼する人なりといふことである。

最も巧みなる商人は最も能く人氣を取る人である最もよく人氣を取る事は先づ自我を没却して時代の輝きと明とを集めて時代に供することである是れ最もよく時代の氣勢に服従し且つ大勢を導くものである近代の成功者の秘訣は皆此の間に在す。

乍去天下の間屋たる見識の上よりいふときは大勢の赴くに任せてこれを利用すると共にこれを制するといふ自己の明と力とを加ふを要し、然れども這般のことはステーツマンの本分にして商人の知る所にあらずといはじ、夫れも商人として上より云ひて至當なれども、されども一國の流行の大間屋たるもの

は永久を大切にして本の枯れず、風教の害はれざる範圍に限り置きて見識を立て、經營するといふことも亦大店の任務である、斯かる經營法にして妙を得ば更に經營の至上なるものである。

不人氣を買ふも平然之れを眼下に見下し不人氣の品物を賣出しても逆より順に廻らす丈けの力あるときは阿諛御世辭の商人にあらずして命令權ある商人となるものである、高島屋にも少しくこれ程の見識がありたきものである。

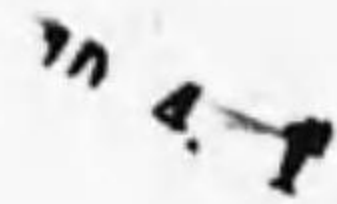
大谷氏の頭腦の堅緻にして滴水も漏らさず、人情頗る厚し。此の簡單なる言葉の中よりして大谷氏の人間の何たるを批評せんか、氏は經營家として先づ整理に長ずるが故に仕事が紊れずし、歩武整ひて其打算歴々として明確を告ぐるに至る、之れ高島屋の支配人として申分なき人物なりと云ふべし。

昭和九年六月二十五日印刷
昭和九年八月十五日改訂第二版發行
昭和十年二月一日改訂第三版發行
昭和十年三月二十五日改訂第四版發行

【非賣品】

複製
嚴禁

(載轉禁)



著者 原 靜 村
大阪府岸和田市沼町一八五番地

發行人 原 徳 太 郎
大阪府岸和田市沼町一八五番地

印刷所 南 海 新 聞 社
大阪府岸和田市沼町一八五番地

發行所 大阪府岸和田市沼町一八五番地
南 海 新 聞 社

終